

無断転載禁止

土木技術者女性の会

輪人

2011年度総会特別号

土木技術者女性の会

< 会の目的 >

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい。
2. 土木界で働く女性技術者同士の知識の向上。
3. 女性にとって魅力ある、働きやすい土木界の環境作り。
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上。
5. 土木技術者をめざす女性へのアドバイス。

< 倫理規程 >

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規程を遵守するものとする。

1. 会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする。
2. 会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する。
3. 会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない。



< 目次 >

巻頭言

時弘 みどり（関東地区世話役）	1
-----------------------	---

第30回土木技術者女性の会 総会報告

全体報告

佐藤 厚子（北海道地区世話役）	2
-----------------------	---

第30回土木技術者女性の会総会議事録

南 朋恵／佐藤 厚子（北海道地区）	3
-------------------------	---

現場見学会～札幌駅前通地下歩行空間整備事業～ 報告

伊藤 優子（北海道地区）	6
--------------------	---

～参加者の声～

土木技術者女性の会第30回総会参加者の感想

中山 真貴子（北海道地区）	9
---------------------	---

今年の現場見学会・総会に参加しました！

松本 香澄（関東地区）	10
-------------------	----

総会日記 ～北海道編～

村上 育子（関西地区）	11
-------------------	----

～初めて総会に参加して～

河本 慧美（関東地区）	15
-------------------	----

新藤 麻子（関東地区）	16
-------------------	----

井塚 瞳（関東地区）	17
------------------	----

～学生会員のコメント～

板谷 智恵美（北海学園大学 工学部 社会環境工学科）	18
----------------------------------	----

大矢 晴奈（北海学園大学 工学部 社会環境工学科）	19
---------------------------------	----

注目のWG紹介

企画WG 2011年度活動報告

牛山 育子（企画WGリーダー）	20
-----------------------	----

事務局便り

【事務局便り】 「会費の自動引落システム」利用のお願い	23
-----------------------------------	----

【事務局便り】 記事の紹介	24
---------------------	----

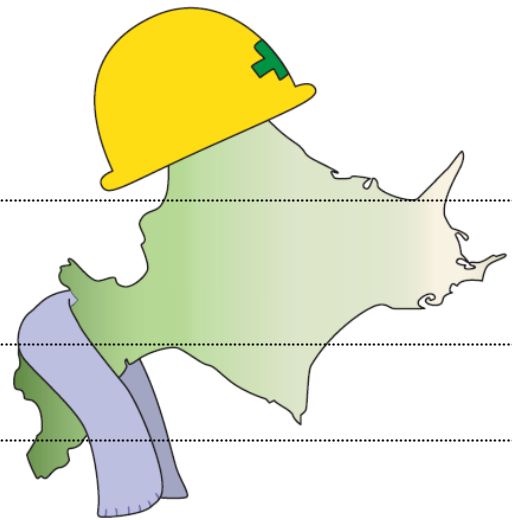
建設業で働く女性たち

～建通新聞 中部版 2012/2/7、2/15、2/24、2/28、3/2より～	24
--	----

土木が好き!!! この人にあいたい①～⑫

～土木施工 2011年4月-2012年3月号より～	27
---------------------------------	----

次回総会（6/22、23開催予定）	39
-------------------------	----



～自分の目で確かめること～

関東地区世話役 時弘みどり

先日、両親の出身地である山口で法事があり、日帰りできる距離ではなかったため、広島のホテルに泊まることにしました。広島到着後は時間があつたので、原爆ドームを見学しました。平和公園には高校の修学旅行で行きましたが、原爆ドームは見た記憶がなかったのです。

その実物を見た私の第一声は、「ちっちゃい」でした。しかし、1945年の当時としては、近代的な洒落た煉瓦作りの建物であつたであろうことは容易に想像することができました。その建造物がかろうじて一部原型を留めているだけの無惨な形に破壊されていることは、原子爆弾の威力を窺い知るには十分でした。

私は、戦争自体には決して賛成はしません。ただ、当時の価値観や考え方、世界の動きなどを知らずに、一方的に否定はできないと思っています。

しかし、事の善悪や是非とは全く別の次元で、原子爆弾が投下された事実とその結果を知ることは、戦争そのものについて、また、当時の人々の考え方というものを私たちが考える上で、何らかの手助けになるのではないかと思うのです。

私たちは土木技術者として後世に残る物を作ります。作って終わりではなく、作られた物のその後の姿と更にそこに至る過程も含め、自分の目で確かめ、考えること、それは、私たちにとって必要かつ不可欠なことだと私はいつも考えています。



第30回土木技術者女性の会 総会報告

1. 総会

2011年10月1日（札幌市定山溪グランドホテル瑞苑 白鳥）（総会出席者 21名 委任状 54名 計 75名 全会員数 165名中 1/10以上により総会成立）

- ・第30周年記念総会について
- ・会のWeb 掲示板について
- ・「Civil Engineer への扉」の第3版および増刷について

2. 見学会

2011年9月30日（金）13:30～15:30（参加者 20名うち学生 2名）

場所：札幌市役所 8F 会議室での概要説明および、札幌駅前通地下歩行空間の見学

札幌市東区市民部苗穂東まちづくりセンター長 清水英征氏の概要説明の後に前回の総会で建設現場を見学した地下歩行空間を歩いてみました。

3. 懇親会

懇親会は総会場所の定山溪でした。1次会からの盛り上がりを残したまま用意した宴会部屋へ直行し日頃の体験を語り合いました。

上記のように第30回総会ならびに見学会を札幌市内で開催しました。たまにはみんなで帰る心配をせずに語るのもいいと思いました。当日体調を崩して参加できなかった島村亜紀子副会長にお会いできなかったのがとっても残念です。

（文責：北海道地区世話役 佐藤 厚子）



第30回 土木技術者女性の会 総会議事録

◆日時：2011年10月1日（土）

◆場所：札幌市定山溪グランドホテル瑞苑 白鳥

1.開会（北海道地区世話役 佐藤厚子）

総会出席者 21名 委任状 54名 計 75名
全会員数 165名中 1/10以上により総会成立

2.会長挨拶（会長 桑野）

3.2010年度活動報告

3-1 役員会報告（以下、笹尾報告）【承認】

(1)第29回総会後役員会

——第30回記念総会について

2011年度のイベントの実施回数が2010年度と比較して少ない。

——輪の発行のあり方について

輪の発行に関するアンケートを実施し、1年遅れで総会に参加できなかった人に紹介。

——会の掲示板について

管理者の応募を今後も継続することとした。

——地区の角印について

公認会計士に確認。（→角印は幾つあっても問題ないとのことから、各地区に配布）

(2)第30回総会前役員会

——総会の開催について

6月東京での開催を延期とし、10月北海道で開催。

3-2 事務局活動報告について

学生会員から正会員への移行に工夫が必要。

——企画WG活動報告について

国際的な会議に対応するために英語版を作成。

——企画WG活動計画について

クオリティの高さ、会の広報効果を鑑みて、シンボルマークを公募。

——Civil Engineer への扉第3版について

土木学会ダイバーシティ小委員会と一緒にCivil Engineer への扉を作ることにしていた。土木学会に土木技術者女性の会から会員を派遣することとした。

3-2 事務局報告（以下龍報告）【承認】

・2010年は計2回、総会に関して打合せた。

——会員動向について（これについては佐藤亜紀子報告）

・総会資料の集計に誤りがある。正会員数150名、全会員数155名に訂正願いたい。

3-3 第28回総会開催報告（以下三好報告）【承認】

・市街化→市街地（総会資料の誤字修正）

・現場見学会が大変おもしろかったという声を聞いた。

3-4 地区活動報告【承認】

3-4-1 北海道地区活動報告（佐藤厚子報告）

3-4-2 関東地区活動報告（代理報告：笹尾）

3-4-3 中部地区報告（代理報告：笹尾）

3-4-4 関西地区活動報告（三好報告）

会計報告の中で、収支欄の表記を統一する。

3-5 「輪」編集・発行報告（佐藤厚子報告）【承認】

3-6 ワーキング活動報告【承認】

3-6-1 坑内労働規制緩和 WG（須田報告）

3-6-2 ホームページ運用 WG（岩本報告）

3-6-3 就職支援 WG（代理報告：須田報告）

3-6-4 広報企画 WG（牛山報告）

3-6-5 第30回記念総会 WG（須田報告）

——土木施工の新連載について

12号発行のうち、11号まで発行済み。今後

継続される予定。

【質疑】：顔いっぱいパネルは評判が良かったが、2011年はパネルをはらないのか。

【回答】：事情によりプレイベントが少なく、パネルをはる機会が少なかった。パネルをはりたい時はポスターとして配布可能。

3-7 2010年度決算報告・会計報告（代理報告：佐藤亜紀子）【承認】／2010年度監査報告（代理報告：佐藤亜紀子）【承認】

4.活動計画

4-1 活動方針（桑野報告）【承認】

震災があり、特殊な事情であり、マスコミ取材が増加している。土木学会出版企画編集協力WGに委員を出す。

4-2 平成22年度役員・会計監査（代理報告：笹尾）【承認】

4-3 役員会・事務局活動計画（龍報告）【承認】

4-4 地区活動計画【承認】

4-4-1 北海道地区活動計画（佐藤厚子報告）

・今年度の見学会は、総会時に実施したため、別途計画、実施しない。

【意見】：プレイベントを開催する時はパネル展示やアンケートを実施して欲しい。

【質疑】：（学校機関への講演会を）学校の講義として実施することとなった経緯を確認したい。

【回答】：道内各大学の地盤系の先生から依頼された（個人的な繋がりがきっかけ）。就職指導のような講義枠があったため、その枠を活用。6月に実施した北見工業大学では、会員の一人が基調講演を担当し、そのあとの休憩時間中にアンケートを実施、そのアンケート結果に基づいてパネルディスカッションを行った。

4-4-2 関東地区活動計画（代理報告：笹尾）

- ・10/8に裏高尾橋の見学会を開催（須田報告）
- ・10/29に女子学生との交流会を開催

4-4-3 中部地区活動計画（代理報告：笹尾）

4-4-4 関西地区活動計画（村上報告）

- ・7/2 地区総会を開催
- ・1/24 土木学会関西支部と共催で女子学生を対象

とした就職セミナーを開催

- ・2/24 地区総会

4-5 「輪」発行計画（佐藤厚子報告）【承認】

4-6 WG活動計画【承認】

4-6-1 坑内労働規制緩和WG（須田報告）

- ・記念総会に向けて、WGの成果を取りまとめる
- 【以下質疑事項】

【意見】：なぜ坑内労働規制緩和が必要だったのか、規制緩和の目的などの説明時に使用できるよう、一般の方でも理解できる用語で成果をまとめて欲しい。

【回答】：わかりやすくまとめるようにする。

4-6-2 ホームページ運用WG（岩本報告）

- ・スマートフォン用のHPをつくる。
- ・若いメンバーを随時募集中。

4-6-3 就職支援WG（代理報告：須田）

——「Civil Engineerへの扉」の増刷について

- ・プレイベント時に無料配布するのであれば、今後、増刷が必要。

【以下、質疑事項】

【意見】：第1版1999年発刊、第2版2006年発刊と前回の改訂から数年経過している。増刷するのであれば、次の改訂を検討するべき。

【要望】：増刷する場合、価格、冊子の状態などこれまでと同じ条件で実施してほしい。

【回答】：増刷するには、それなりの費用が必要であり、改訂となれば、ある程度の時間と増刷の倍の費用が必要となる（事務局）。

【意見】：就職支援WGは、「Civil Engineerへの扉」の編集WGであった経緯がある。第3版の編集WGとするのはどうか（事務局）。

【意見】：土木技術者女性の会の財産は人材であり、「Civil Engineerへの扉」は会の活動の記録である。また、「Civil Engineerへの扉」自体が会の財産となっている。第3版発行に向けて行動をスタートした方がよい。テクニカルな詳細は、役員会で詰めることとしたい。

【意見】：第3版を作成することおよび、2版の増刷について参考意見（多数決）を取りたい（事務局）。

【意見】：予算等の諸条件が不明のまま総会として、

その内容（3版作成・2版増刷）で決を採るべきでない。

【意見】：「Civil Engineer への扉」が会の活動として今後も必要か？について参考意見をとる（事務局）⇒会にとって必要と考えるという意見に賛同した人が21名（総会参加者全員）。

4-6-4 企画WG（牛山報告）

- ・企画WGへの新規参加者を募集している。多くの人に参加してほしい。
- ・会のシンボルマーク作成を行うが、活動費は30周年記念WGから支出される。

4-6-5 第30周年記念総会WG（須田報告）

- ・第30回記念総会の名称が創立30周年記念総会へと変更。
- ・土木施工「土木が好き!!!この人に会いたい」が好評で2011年度で終了の予定だったが、2012年度も継続される。

4-7 予算計画（代理報告：佐藤亜紀子）【承認】

- ・p56 部会活動費の第30回記念総会WGの活動予算は101,000ではなく、232,540に訂正。部会活動費の合計は、392,540に訂正。合わせて、p55,56の販管費合計は、845,960に訂正。

5.第32回総会開催地について【承認】

- ・中部地区が立候補し承認された。（代理報告：笹尾）

6.その他

掲示版について（河本報告）

- ・使用方法について説明
- ・女性の会会員限定とするため、承認制。
- ・主、副の2名の管理者が必要
- ・管理者は炎上対策や悪意の書き込み削除、承認作業が必要。
- ・試験運用期間を設けて課題を整理検討する必要がある。

【以下、質疑事項】

【要望】：参加者が8名で少ないので、参加してほしい。

【意見】：ミクシィに参加するのは難しいが、北海道から発信したのに当初は北海道からの参加者がいなかった。ミクシィに参加して掲示板につぶやいたことから、北海道での総会が開催できた。また、学生時代の友人と連絡できた。

【意見】：携帯から見るができる。

【意見】：Face Bookは扱いやすいので、Face Bookをできるようにしたらどうか。

7.閉会挨拶（北海道地区世話役 佐藤厚子）

（文責：北海道地区 南 朋恵・佐藤厚子）



現場見学会 ～札幌駅前通地下歩行空間整備事業～

- ◆主催：土木技術者女性の会 ◆協力：札幌市 ◆日時：平成 23 年 9 月 30 日（金）13:30～15:30
- ◆場所：札幌市役所 8F 会議室、札幌駅前通地下歩行空間
- ◆講師：札幌市東区市民部苗穂東まちづくりセンター長 清水英征 氏

2011 年 3 月 12 日、札幌駅前通地下歩行空間が開通し、JR 札幌駅からススキノまで地下の歩行空間が繋がり、札幌市民の念願であった“季節や天候に左右されず、安全・快適に移動できる歩行空間”の登場となりました。地下歩道計画は、1971 年札幌オリンピックの地下鉄開通時から市民の声としてありました。その経緯も踏まえて、「地下歩行空間」計画から誕生、さらには今後の地下歩行空間の運用について説明を受け、現地で確認しました。

なお、当該地は、平成 21 年 6 月に開催された第 28 回見学会の現場であり、参加者は基礎工事から完成まで見ることができました。

1. 事業概要

- 事業区間：地下鉄南北線さっぽろ駅⇔大通駅
- 開通延長：約 520m
 - ・札幌市施工区間……約 360m
 - ・北海道開発局施工区間……約 160m
- 幅員：20m
 - ・歩行空間幅員……12m
 - ・憩いの空間（条例広場）…4m×2
- 事業期間：平成 17 年度～23 年度（6 カ年）
- 総事業費：約 252 億円
 - ・札幌市施工区間……約 172 億円
 - ・北海道開発局施工区間……約 80 億円
- 交差点広場：3 箇所
- 出入口：13 箇所
- 接続ビル：平成 23 年 3 月 12 日時点 7 棟

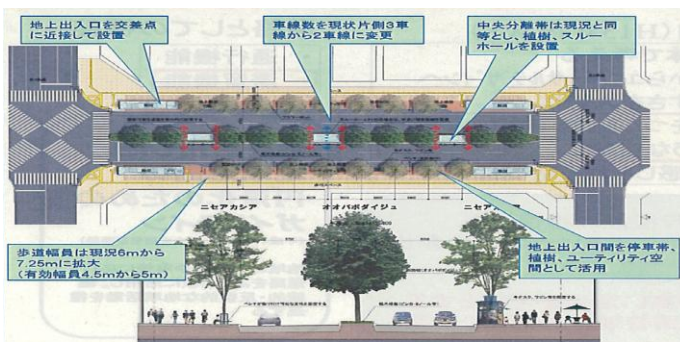


図2 札幌駅前通地下歩行空間概要

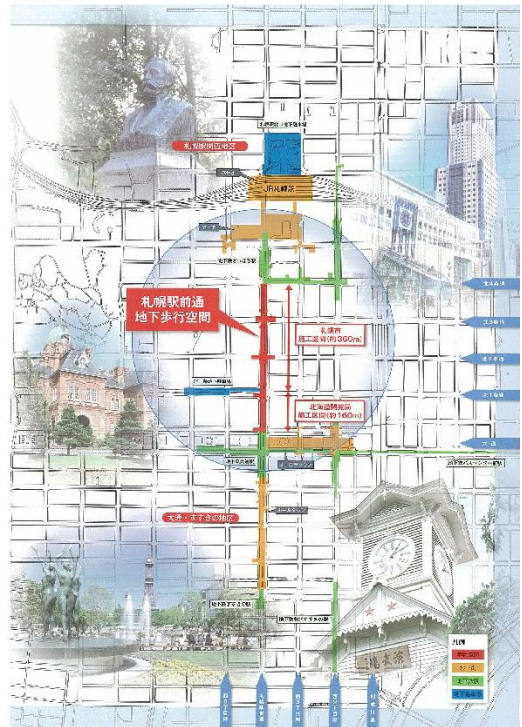


図1 札幌駅前通地下歩行空間位置図

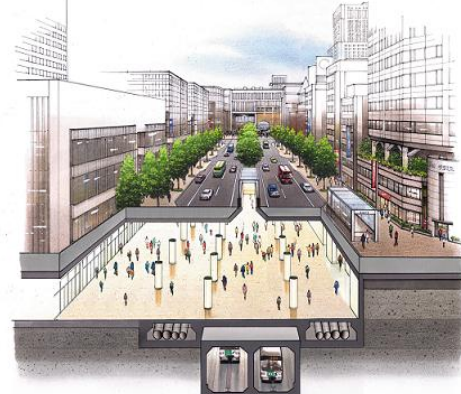


図3 札幌駅前通地下歩行空間断面図

2. 事業説明

札幌市東区市民部苗穂東まちづくりセンター長 清水英征 氏より、次の3点について説明を受けました。

- ・札幌駅前通地下歩行空間事業概要とその特徴
- ・札幌駅前通地下歩行空間の構造とデザイン
- ・事業効果と今後の展望

また、質疑応答では、下記の積極的な質問に対して、丁寧な説明がありました。



説明会会場の様子

3. 質疑応答

1) 道路管理者が地下空間を占有するにあたって問題はなかったか

⇒ 札幌市では、大通公園（地下通路・地下街）のような先進事例がある。道路は公共物なので、交通管理者は使用許可、広場の運用は条例があれば問題ない。

2) 地下歩行空間とビルの接続空間は個人（ビル）への利益誘導とはならないか

⇒ 接続空間はビル所有者の占有ではない。工事費は負担するが、賑わい・公共・広場を担保できることで了解している。

3) 維持管理の重要性はどのように担保するのか

⇒ 札幌市が資本金を捻出する「まちづくり会社」が担っている。お金だけでなく、市職員を派遣して、人的サポートも行っている。

4) 「緑を感じる都心の街並み形成計画」について数値的な目標みたいなものはあるのか

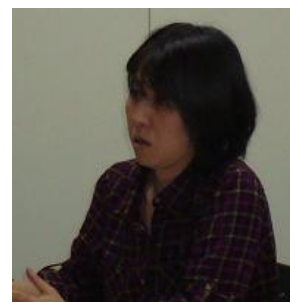
⇒ いまここで数値を提示できないが、「札幌市緑の基本計画」では目標設定されている。

5) 地価の大きな変化はないか。

⇒ 通常地価は1F>B1であるが、B1が1Fの地価に近づいてきている。全体として、都心地価は維持されていると考えている。

6) 容積率規制について問題はないのか。

⇒ 都心は限られているので問題はない。早い者勝ちともいえる。



質問者

4. 見学会の様子



地下歩行空間見学会のはじまり



道路と地下歩行空間の接続部分を確認



地下歩行空間の要所要所で説明を受ける



記録担当より一言

歩行空間オープンに伴い、数々の説明会が繰り返されて来ました。今回の質問には、「そこ、そこ！」と叫んでしまいそうでした。痒いところに手が届くというか、的を射た質問だったと思います。さすが、土木技術者女性の会！と自画自賛。

(文責：北海道地区 伊藤 優子)

参加者の声



土木技術者女性の会第30回総会参加者の感想 中山 真貴子（北海道地区）

当初の予定では 30 周年記念総会として盛大に関東地区で開催される予定だった第 30 回総会は、東日本大震災の影響により急遽北海道で開催されることとなりました。時間も人もない中で大丈夫か北海道??と危ぶまれたかと思いますが、何とか無事総会を終わらせることができ、北海道地区一同ほっとしたところです。

見学会当日は夏のように暖かった前日までとは打って変わって冷たい小雨模様になりました。私は会場の案内として札幌市役所ロビーで待ち受けていたのですが、全国各地から参集する参加者がきちんと定刻には見えられ（北海道は飛行機等の交通機関が遅れるともう大変なので）、一安心でした。市役所の会議室で事業の説明と質疑があった後、地下歩行空間の見学のため市役所を出たら意外に雨足が強まっており、天候に影響されない地下歩行空間の見学で良かったと現場見学会担当の南さんに心の中で感謝。地下歩行空間は札幌市民として開業後たびたび通っていましたが、案内者がついてポイントを解説してもらいながら歩くと、計画の視点が良くわかり、なるほど〜の連続でした。

見学会の後はずぐホテル差し回しのバスに乗り、懇親会と総会の会場定山溪グランドホテル瑞苑へ。このホテルは当初の総会案内のホテル鹿の湯から変更になり、参加者にはメール等で変更を連絡したところなのですが気づかなかった人が結構おり、えっ、ホテル変わったの? の声が続出。直接ホテルに来る予定の参加者もあり、なん



となく不安を感じつつバスの中では会話に興じたり、旅の疲れから一眠りしたりして小一時間でホテルへ到着しました。部屋割りにはバスの中でくじを引いてもらったのですが、結果を幹事が控えておかなかったためだれがどの部屋に入ったかわからなくなり、しばらくうろうろ。2次会用宴会部屋確保のための布団を移動した後、やっと一風呂浴びて懇親会となりました。北海道地区会員は温泉好き（そして温泉で時間を気にしないでおしゃべりするの好き）で、せっかく泊まってもらうならやっぱり温泉がいいのではと決めた会場ですが、湯加減はどうだったでしょうか。

懇親会は畳の広間が会場でした。職場の宴会では上司の席はどこにするやらビール持ってあいさつ回りやら、浴衣のすそがはだけのやらでなんだか落ち着きませんが、ここは上座も下座もぱんつ丸見えの男の人もいない。みな自由な格好でくつろぎ、自己紹介でまず盛り上がった後、にぎやかに楽しく夜は更けてゆきました。土木技術者女性の会は、やっぱり懇親会に参加しなくちゃです。

(北海道行きの飛行機に乗ろうとして空港で事件が発生！とか、面白い話がいっぱいあったのですが、再現は難しいので参加者に聞いてみてください)



総会の様子

翌日は朝 9 時 30 分からホテル内で総会が行われました。心配したとおり、当初お知らせしたホテル鹿の湯のほうへ行った方がいたりしながらも、ほぼ予定時間に開会し、時間内いっぱい報告と議論が交わされました。皆様の熱意と真剣さに参加者は少ないながらも、会員の委任を受け総意として決定する重みを感じた 2 時間でした。

北海道のような遠隔地で 2 日間の詰まった日程をこなし、参加者の皆様お疲れ様でした。本年はこれまでの 30 年を振り返り、これからを考える記念の総会ですが、さらに元気な皆様にお会いできることと思います。よろしくお祈りします。



今年の現場見学会・総会に参加しました！ 松本 香澄（関東地区）

今回の総会行きへの想いは格別でした。

3 月の東日本大震災を受けて、4 月末の役員会にて 30 回記念総会が正式に中止（30 周年記念総会へ延期）となり、今年度分の総会は、その場で立候補してくださった北海道地区（中部地区もお話あり）での開催ということに。その瞬間、いつもは優柔不断な私が、秋の総会の予定を手帳に書き込み、行くぞ！と決めていたのでした。それまで、30 回記念総会に向けて積み重ねてきたイベントの数々、ポスターや名刺の作成、シンボルマーク選定に向けた動き・・・記念総会という一つの方向に向かった結集しつつあったエネルギーのやり場に戸惑っていた中、北海道地区からのご提案。これは参加することで、その気持ちにお応えするしかないな、と思ったのでありました。

あれやこれやあったものの、なんとか死守できた 9/30（金）の夏休。前日夜も宴会だったため、ろくな準備もなく 6 時前には羽田に向けて家を出

発。あたふたと到着した札幌市役所には、すでに 20 人以上の仲間が集合していて、勢いに圧倒されました。私は、過去 20 年近くこの会に所属していながら、今回はじめて現場見学会からのフル参加。新鮮な面持ちでございました。

今回の現場見学会は、札幌駅から大通公園までの地下歩道整備。担当された市職員の方のこなれた説明を 1 時間ほど伺い、ちょっと傘を差しながら、徒歩移動して現場へ。

今回の事業は、政令指定都市である札幌市の公共事業であり、単なる通路事業ではなく、周辺のまちづくりを事業に抱き込み、国の補助金・交付金制度を駆使し、民間の力を上手に生かして成功した事例であり、それらを目前にした東京都職員と大阪府職員（共に都市計画担当・・・）の目の色が変わったのは言うまでもありません。冬場の気候を考慮してなのか、地下通路の有用性は地域によって異なるかもしれませんが、市職員の方々の長年に渡る相当なご苦勞、熱意のたまものである現地は、平日の午後にもかかわらず、大勢の人々

に利用され、立派に市民権を得ていたのです。本当に勉強になりました。

その後、バスに1時間ほど乗って、宿泊場所である定山溪温泉へ。直前で、旅館変更などもあり、幹事さんは相当大変だったのだろうな、と思いつつ、完全に観光気分。寒波到来により、予想外に気温の低い中、(実はおかげで紅葉を若干楽しみながら)お風呂にゆっくりつかった後、宴会場にて立派な一次会。出席された方々の自己紹介等をききながら、豪華なお食事に舌鼓。その日の朝の飛行場での荷物検査を通過するための苦労やら、若いママさんが直面する保育園問題やら、文系から理系への転換の話やら、あまり知られていない高専の実態の話だとか、一次会だけでは、まだまだ話し足らず、幹事さんが用意してくださった宴会部屋にて二次会へ。かなりの出席率の中、定山溪の夜は更けていったのであります。

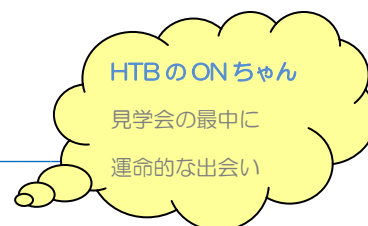
翌朝(10/1)、朝風呂浴びて、意外と豪勢な朝食バイキングをいただいて、すっかりくつろいでしまってから、総会へ。ちょっと、気持ちを入れ替えて、背筋を伸ばして参加。

総会での印象としては、まずは、来年の30周年記念総会に向けてのネジのまき直しが最重要、と再認識しました。こういう時期だからこそ、土

木の必要性・重要性、そこに生活者としての女性が入ることの意義、みたいなことを語れるのではないかと個人的には思っています。あとは、近頃増えてきたマスコミ対応(取材希望・人材紹介等)の関係の整理、それから「シビルエンジニアへの扉」の増刷?第3版の作成?あたりの議論がポイントだったような。毎回のことながら、任意組織でありながら、総会にきちんと取り組むこの会の伝統は素晴らしいなと思いました。こちらにも、関係者の方々のご尽力により、無事終了。午後の役員会も早々に課題をまとめることができましたように思います。

一泊二日で駆け足ではありましたが、会の皆様とご一緒することができ、いろいろなお話をすることができ、(悩みまで聞いてもらうことができ・・・)本当に貴重な時間をもつことができました。幹事の皆様のご苦労に心から感謝すると共に、折角いただいた機会をしっかりと今後の人生に生かしていかなければ、申し訳ないな、と思いました。ありがとうございました。

本年は、30周年記念総会です。せっかくの機会ですので、会の皆さんのパワーを結集して、有意義な会になるよう、がんばりませう。私も微力ながらお手伝いしたいと思っています。



総会日記 ～北海道編～ 村上 育子(関西地区)

●2011年9月29日(木)

夕方、明日から北海道に行くことを上司に告げると「北海道に行くんか!?今が一番いい季節やないか～」と言われ、普段仕事では滅多に見せないデレデレ顔で自席に戻り、明日からの札幌の最高気温を早速チェック。予報では、30日(金)は19℃、1日(土)は15℃、そして2日(日)は12℃!どんどん気温は下降していく。“げっ12℃?12℃ってどない寒さなん?”

と思い、大阪の年間平均気温のグラフを検索。するとナント12月中旬の気温とドンピシャ!“まだ9月やし、夏服しか無いわ。一体どんな服装で行ったらええのか・・・”とルンルン気分から一転。頭を抱える事態に。

そして深夜...まだ服装が決まらない。これで風邪を引くのだけはごめんだ(周囲から何を言われるか分からない)。しかし、いくら考えても12℃という寒さが分からない(だって大阪は27℃だも

ん)。時は刻々と過ぎて行く。もう荷物になってもいいから上着とダウンベストを持って行くわ！と決断し、やっと眠りにつく。

●2011年9月30日(金)

朝5時に起床。6時に自宅を出発。関西空港に7:20到着。ここで関西地区のM好さんとU山さんと合流。3人とも寝不足気味(ただしお二人は仕事で寝不足。私は服装で悩み寝不足)。さっそく搭乗のチェックインを済ませ、身体チェックを無事に通過…のはずが、あの「オカンのナイフ」事件が勃発！関空職員と熾烈な攻防を繰り広げること約30分(長くなるのでここでは割愛)、早くに空港には到着していたものの、結局出発ギリギリに搭乗するハメに。

関空8:30出発。新千歳空港10:30到着。13時の集合時間にはまだ余裕があるので、空港内で昼食をとることに。「やっぱり札幌ラーメンちゃう？」と関空にいる時点で昼食を決めていた3人。さっそくラーメン道場内に突入。時の時計台で1杯1,750円もする“ほたてバター辛子味噌ラーメン”を食する(この辺りから食に対する金銭感覚が狂い始める)。高いッ！けどウツマ〜〜イッ！

空港からJRに乗り札幌駅へ。しかし集合場所については3人ともノーチェック。(誰かが知っているはず…とよくある他力本願状態)しばし札幌駅をウロウロと彷徨う。そして集合時間10分前に、迎えに来てくださった北海道地区のS藤世話役さんと無事に合流。いよいよ「北海道へ、キターーッ！」感が生まれる。

13:30より現場見学会がスタート。あいにくの雨模様。札幌市役所内にて事業説明を受けたのち、今年の3月に供用スタートした札幌駅〜大通駅間の地下通路を見学。さすがデッカイドー。なんしか広々としている。

まだ隣接するビルと地下で直結している箇所が少ないせいか、大阪のように雑然としていなく、スタイリッシュな空間に感じる。また1,000人単位の市民WSを開催するなど、市民の意向を取り

入れた斬新なデザイン&設備があちらこちらに配備されているので、目は留まることなくキョロキョロ。しかしこの地下通路の完成により、今まで市営地下鉄を利用していた客が一気に流れてしまい、地下鉄の売上げが減少したとか(一区間¥240だから、そりゃあ皆さん歩きますわな)。



通勤タイム時には、人通りが多く混雑する通路

見学会中、地下通路の所々でイベントがあり、つい誘惑に駆られフラ〜と列からはみ出し、北海道地区のM嬢から首根っこを捕まれ、連れ戻されること度々(許してたもれ)。



網走のナマ流水を直に触り、感動中の皆さん

そして時間も押したことから、足早に見学会は終了。すぐさまホテルのバスに乗り込み、定山溪温泉へ(この頃から気温が徐々に下がり始め、いよいよ北海道の厳しい寒さの洗礼を受けることになる)。

ホテル到着後は、懇親会まで時間があるため、マッタリと温泉に漬かり、ついでに日頃の疲れを取るべく、カタコトの日本語を話すオネエサンのマッサージを受ける。45分¥4,500也(すっかりオッサン)。

19時より懇親会がスタート。しばし歓談後、定例の自己紹介&近況報告。このあたりから温泉&

マッサージの効果が現れ始め、酔いが勢い良く体中を駆け巡り、My 浴衣が乱れ始める。

21 時より一部屋を貸し切り二次会がスタート。バラエティに富んだ飲み物・おつまみがたくさん用意され、気分は絶好調！（北海道地区の皆さんありがとう！）ワイワイと皆で騒いだ記憶はあるものの、実のところ、あまりよく覚えていない…ただ翌日、右ヒザに見事な青タンが出来ていたの（どうやら自分で右ヒザをペチペチと叩きまくっていたらしい）、きっと楽しいひと時を過ごしていたのであろうと推測される。

●2011 年 10 月 1 日(土)

この日は荒れた空模様。雨かと思いきや、晴れたり、時には冷たい風が吹き荒れる。さすが北海道。シバレル！



朝の定山溪 紅葉はこれから？

朝、起き掛けに一風呂浴び、ホテルのバイキングでガッツリ朝食をとったのち、いざ総会へ。

第 30 回総会は、進行役の R お姉さまの巧みな取り纏め&出席者のご協力により、議事は淡々と進み、時間内に無事閉会（詳細は議事録を参照）。余韻に浸る間もなく、昨日に続いて足早にホテルのバスに乗り込み、札幌駅へと向う。

札幌駅に着くや否や参加者の皆さんとお別れし、役員会へ出席。主な議題は 30 周年記念総会のイベントについて。役員の方々は本業を抱えつつ、会の運営にも尽力をいただき、本当に頭が下がる思い。私もガンバルワと決意を新たにす。

夕方、役員の皆さんともお別れし、いよいよ観光モードにスイッチオン！宿泊先のホテルにチェックイン後、同窓会に出席予定の M 好さんと一

旦解散。そして、U 山さんと 2 人で楽しみにしていたサッポロビール園へ、いざ出陣！



念願のサッポロビール園にて。ご満悦の U 山さん

ジンギスカンをしこたま食べ、気分良くお店を出ると、外はメッチャ寒い（なまら寒いっつーの）。寒さに耐えかねた 2 人は、防寒着を買うために近くのユニクロへ飛び込んだほど（結局買わず仕舞い）。

その後、宮越屋の珈琲を片手にホテルに戻ると、今度は服に染み付いたジンギスカンの臭いを消す作業に追われる 2 人。下着姿のままファブリーズとリセッシュで格闘すること 1 時間。やっとの思いで服&体に染み付いた臭いを退治できた頃に、再びあの臭いをプンプンとさせた M 好さんが、爽やかに部屋に登場。またもや格闘する 3 人。果たして無事にあの臭いとオサラバはできたのか！？

●2011 年 10 月 2 日(日)

この日も荒れた空模様。しかし昼頃からは秋晴れに変わる。でも風は冷たい。

完全に観光モード態勢の 3 人。総会出席のもう一つの目玉である買い物三昧に力を注ぐ。M 好さんのご学友のご厚意に甘え、札幌市内の観光&買い物巡りの案内役をお願いすることに。

時計台⇒写真を撮りまくり！

大通ビッセ⇒スナッフルズのチーズオムレットなど、有名なお菓子を買いまくり！

きたキッチン⇒道産食品を買いまくり！

さっぽろオオタムフェスト 2011⇒北海道の農産物・海産物を食べまくり・買いまくり！



左：焼きとうきびを頬張るM好さん

右：ムラサキウニを食べて満足気な筆者

この辺りでテンションは MAX！「うち、わざわざ大阪から買出しに来ましてん」と言わんばかりに、トウキビ8本、じゃがいも2袋、ジャムにチーズにハムに…と何故か重量級ばかりを購入。そしてこれが後に泣くハメとなる。

大倉山ジャンプツェ⇒ラージヒルの舞台に大興奮！

どんぐり⇒念願の「ちくわパン」を購入！

市内のスーパー⇒ご当地フードの「ホンコンやきそば」&「やきっぺ」をゲット！

…とまあ、たった半日だったが、旅行三原則である「よく食べ、よく買い、よく遊ぶ」を遵守。今回、買い物三昧用に備えて旅行バッグはコロコロをセレクト。しかしバカ買いし過ぎて蓋が閉まらず、私の体を載荷重することでどうにか Close。しかし今度は詰め込み過ぎたために、バッグを引くバーが出てこない。気が付けば、バッグの全重量は恐ろしいほどの重さとなっていた。シェ〜！

空港まで車で送っていただき、ここでM好さんのご学友と涙のお別れ。職場への土産を買い、最

後の記念にと宮越屋の珈琲を飲み、ゆったりとした気分で関空行き飛行機に搭乗へ…のはずが、今度はバッグの引換券を紛失したことが発覚！あたふたと再発行の手続きを済ませ、ダッシュで飛行機に飛び乗るものの、またもや出発ギリギリとなる（オカンのカバン事件と命名）。

関空には 19 時に到着。ここで 3 人は解散。思い出と土産をいっぱい詰め込んだ重い重いカバンを引きずりながら家路へ…こうして長くても短い、充実した北海道総会の幕は閉じたのであった。

●終わりに

見学会～総会まで足早に時間が過ぎ去り、お世話になった北海道地区の皆さんに、ちゃんとした御礼の挨拶ができずに申し訳ございませんでした。この書面にて御礼を申し上げます。北海道地区の皆さん！本当にありがとうございました！

●おまけ

さて、ここで問題です。

これは一体、何の順位でしょうか???



大倉山ジャンプ競技場にて。3人で記念撮影

※正解は…本年の総会で！

～初めて総会に参加して～

■河本 慧美（関東地区）

○総会に参加したきっかけ

皆様はじめまして。本年度より本会の“掲示板管理人”として役員も務めさせていただくことになりました、関東地区の河本です。総会に参加するに至ったきっかけは、この“掲示板管理人”となったことです。土木技術者女性の会に入会して3年目、建設コンサルタント会社に入社し社会人としてもまだ3年目と、未熟者な私です。総会に参加するなんて早すぎるのではないかとの思いもありましたが、総会後の役員会は参加必須とのことで、今回は有無を言うこともなく総会デビューを果たす結果となりました。

○札幌駅前通地下歩行空間の見学

今回の総会開催地は北海道地区とのことで、小旅行気分に参加してきました。札幌駅前通地下歩行空間の現場見学からが総会の始まりです。札幌市の方からの、地下歩行空間整備事業に関する説明は、普段の仕事とリンクしていきそうな話もあり興味深かったです。実際に現地を歩いてみると、細かなこだわりを感じたり、整備段階から想定されて造られたものが、想定通りに機能していたり、観光気分もありましたが勉強になりました。現場見学中は、皆さん真剣に説明を聞いたり、写真を撮ったりと、仕事柄、やはり興味のあることが同じ女性が集まっていると実感しました。そして、興味のあることにはすぐに反応してしまうものですね。地下歩行空間は広場としての機能があるため、見学している日もさまざまな催しが実施されていました。流氷の展示には、私も思わず走ってしまいました。

○総会の醍醐味

総会が1番の目的であることは分かっています。それでも、総会に参加する本当の意味はここにあるのではないかと感じたのが、1日目の夜の懇親会でした。おいしい料理を食べて、お酒もちょっとずつ入ってくると楽しくなってきた、この業界にいるとなかなか味わうことのない女子会のような盛り上がりでした。面白い話もでてくるし、同業だからこそ分かり合えるような話もありました。楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

○総会

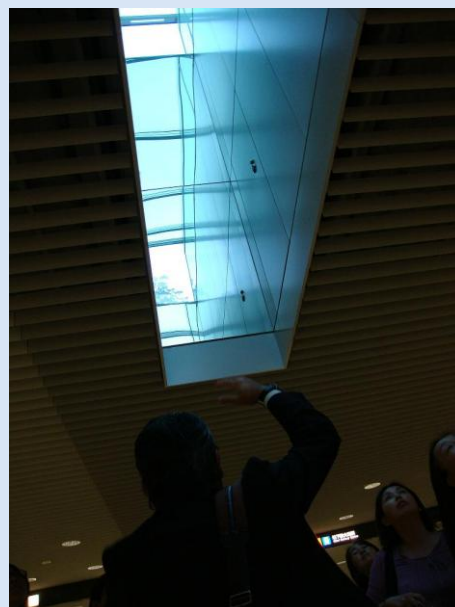
メインである総会は、飲み明かした翌朝から開催されました。昨夜とはまた違い、皆さんキリッと顔つきも変わっていました。

分からないことや疑問点があればすぐに意見がでてきて、みんなでどうするか考え、本会のあり方や発展についても、皆さん同じ方向を向いて進んでいるのだというのがひしひしと伝わってきました。私も掲示板管理人として、活動報告をさせていただきました。

○掲示板のご紹介

先ほどから、“掲示板”という言葉を出していますが、“掲示板”って何なのかと思われている方もいらっしゃるかもしれません。そこで、少し横道にそれますが、掲示板についてご紹介させていただきます。

“掲示板”とは、インターネット上の『mixi』のコミュニティを利用して、全国の土木技術



者女性の会の人たちと気軽に意見交換をしようと立ち上げられたコミュニティサイトのことで、参加人数はまだ10人程度ですが、参加資格は本会会員であることのみですので、皆さま気軽に参加して下さい。覗き見だけでも、興味をお持ちになりましたら、ぜひ『mixi』で土木技術者女性の会と検索をかけてみて下さい。

○総会に参加して得たもの

右も左も分からないまま今回の総会に参加してしまいました。参加した甲斐があったと総会后改めて感じました。本会には学生の頃からお世話になっており、その頃から本会に所属している方々は仕事もプライベートにも熟達されているような、敷居の高いイメージがありました。そのため、最初は緊張と不安がありましたが、皆さん優しく迎え入れてくださり、楽しい充実した時間を過ごすことができました。総会には、私と年齢があまり変わらない方も参加されており、しっかりとした意見や考えを持っていて、私も刺激されました。皆さん仕事のときは真剣に、遊ぶときは思いっきりと、なんでもハッキリとしていて、それがなんとも爽快に感じられました。それでいて、細かい気配りや思いやりも忘れていないといえますか、こんな人を目指したいと思えるような方々の集まりでした。まだ、本会に入会したばかりで、総会ってどんなだろうと気になっていても参加を躊躇されている方がいらっしゃったら、ぜひ次回は参加してみてください。きっと、なんで今まで参加しなかったのだろうかと思うほど、みなさんの温かさや優しさを感じることができますし、充実した時間をすごせて、得られるものがたくさんあると思います。

今回の総会は本来なら、関東地区で開催予定となっていました。東日本大震災の影響もあり、北海道地区での開催となりました。北海道地区開催での経緯には、本会の掲示板がきっかけとなったようです。またこの掲示板をきっかけに、何かはじまるのであれば、掲示板管理人としても嬉しく思います。最後に、東日本大震災により亡くられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆さまへ心からのお見舞いを申し上げます。

■新藤 麻子（関東地区）

私は、土木系の会社に入社して12年経ちますが、最近までこの会の存在を知りませんでした。また、内向きの仕事がほとんどで、社外に出ることが少ないためか、社外の女性技術者と会ったことは、講演会等で1度か2度あっただけだと思います。しかも、挨拶や名刺交換をした程度で、ゆっくり話をしたことはありませんでした。だから今回、会員の方達と会えることをとても楽しみにしていました。そうは言うものの、やはり人見知りもあるもので、すでに出上がった輪の中に入っていいのか少し不安を感じながら集合場所に向かいました。

工事の現場にいる女性ならば、きっとすぐに見分けがつくと思うのですが、集合場所は現場ではなく、普通に女性がたくさん集まる札幌駅構内です。私は少し早く着いたので、まだ誰もいないのではと、少し周辺をうろうろしていま



した。そのうち、活気ある女性の団体を発見。携帯から電話をしてみると、まさにその活気ある女性達が、会員の皆様でした。その和に入ると、先ほどまで感じていた不安はすぐに無くなりました。皆さん、とても気さくな方達ばかりで、ノリも良いのです。最初からとても楽しい会になると確信出来ました。

今回の最初のスケジュールは現場の説明と見学でした。私が仕事で行った現場といえば、桟橋の調査がほとんどで、建築現場の経験はありません。そのため、現場見学前に建設計画立案の経緯や施工状況などを説明していただいてもなかなか現場のイメージがつかめず、ピンときませんでした。しかし、他の参加者の方達がたくさん質問してくださったことで、ようやく分かってきた部分が増えたように思います。それぞれ違った経験をされてきた方達の集まりですから、いろんな見方もあって参考になり、刺激にもなりました。

今回の現場は、完成後の地下道ということで、一般の方が通る中で説明していただきました。人通りが多い中でも、きっと目立っていた集団だと思います。建設中の現場では、もっと目立ったことだろうと思い、その時の作業されている男性達の顔が見てみたいとなりました。

さて、一番楽しみにしていた懇親会とその後の2次会。何度も参加している方や初めての方など区別なく、とても盛り上がりました。とくに2次会では、一部屋に殆どの参加者が集まって、膝をつき合わせるようにして飲みました。仲が良い会でなければ出来ないような形で、これまで会を支えてきた方達が気さくな雰囲気を作ってきてくださったのだと思います。初参加の私でも、仕事の悩みを聞いていただいたり、日曜の北海道観光にも誘っていただいたり（飛行機の関係で、結局ご一緒できませんでしたが。。。）、有意義で楽しい時間を過ごしました。

翌日の総会は、議題が多いし、短い時間で大丈夫なのだろうかと思っていましたが、積極的な意見がたくさん出る中でも、事務局側でうまくまとめていただき、バスの時間に間に合いました。

みなさん意欲が高く、私も入社時からこの会を知っていたら、もっと意識の高い社会人生活を送っていたかもしれないと思いますが、その時間を取り返せるように、会に積極的に参加するつもりです。これからどうかよろしくお願いします。

■井塚 瞳（関東地区）

2011年4月に入会させて戴いてから、初めてのイベント参加が今回の総会と現場見学会でした。どなたも存じ上げなかったので無事に見つけられるかの不安と緊張を持ちながら集合場所に向かったのですが…何故か一発で見つける事が出来ました（何か引きつけられる空気があったのでしょうか）。集合場所からの移動の間も「入会してくれて有難う！」と親切に声をかけて下さったので、一気に緊張が解けて見学会に臨む事が出来ました。

私は現在東京に住んでおりますが、実は生まれも育ちも（高校迄）札幌なので、今回の地下歩道を見学させて頂くのを前々からとても楽しみにしておりました。札幌市のい



いわゆる「街」といえば大通り駅と札幌駅周辺なのですが、冬場にこの2駅間約20分を渡り歩く時はなかなか大変で、札幌市民はこの地下歩行空間が完成するのをずーっと待ち望んでおりました。…実は、母親に今回の見学会の事を事前に伝えると「え？何を観るの？露店はたまに見るけど何も無いよ？ただの道」と言われていたのですが、実際に札幌市の方の説明を聞きながら観ていくと、段差を利用した休憩所や空間を広く見せる手法等、細部まで色々な工夫がされている事に興味致しました。普段何気なく通り過ぎている私の母の様な市民にも、こういった工夫を知ってもらえたらいいなと思いました。当日は少し雨が降っていたのですが、札幌の地下でこんなに人が歩いているのは初めて観た…！という位、人通りが多かった事からも、これからこの地下歩行はどんどん活躍していくこと間違いなしだと思いました。

場所を定山溪に移動して開催された懇親会では、自分の将来の事や業務内容、結婚、出産体験・アドバイスなど日常の会社生活では聞けないようなお話を聞く事が出来、とても貴重な時間を過ごす事が出来ました。普段の業務で直接交流が無くとも、こういった共通の想いや悩みを持っているからこそ、皆が団結したこの会が長年続いてきたんだろうな…と勝手に感動していました。まだ入会したてではありますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

～学生会員のコメント～

■板谷 智恵美（北海学園大学 工学部 社会環境工学科）

札幌駅前通地下歩行空間を見学し、印象に残った点が3点あります。それは、「細部までこだわったデザイン」と「市民参加」、そして「人・光・情報が集まる空間」です。

1点目の「細部までこだわったデザイン」は、天井の様子が波模様になっていたり、スルーホールを用いて太陽光を取り入れたりしていることは、説明を聞かなければ気付かずにでしたが、知るとそのデザインに見入ってしまいます。また、出入り口壁面にあるガラス発光壁の、時間や季節変化とリンクした演出も、歩行者の目を引くものとなっています。このように、地下歩行空間は道路としてだけではなく、視覚も楽しむことができる空間になっていると感じました。

2点目の「市民参加」は、地下歩行空間を施工する計画を立てる段階で市民による千人ワークショップを行い、市民に札幌市のまちづくりに対する意見を尋ねた点に感銘を受けました。北海道や札幌の顔となる地下歩行空間を、その地域に住む市民とともに計画を立て施工していくことが、人々が空間に愛着を持つきっかけになるのだと実感しました。

3点目の「人・光・情報が集まる空間」は、中央歩行空間と憩いの空間で異なる床材料を使用して空間の分離を行い、憩いの空間にテーブルやイスを設置し、カフェなどを利用しなくても歩行者が休むことができる場所を設けて快適性の向上を図っていることがわかりました。また、そこで道内各地の特産品販売を行っていることを知り、人が集まり情報を共有することができる空間になっていることが理解できました。沿道ビルと空間を接続させて人を集め、にぎわいを創出していくことで人の流れができるようになりました。スルーホールによって自然光を取り入れ、地下を明るくしているのも、人が集まってくる要因だと思います。

最後に、今回の説明を受けて地下歩行空間をつくるためには、市民や市役所、そしてデザイン検討委員会などのさまざまな関係機関の協力、連携が重要だとわかりました。

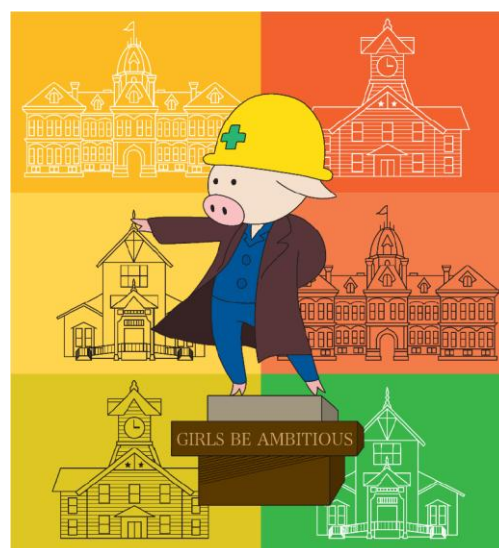
■大矢 晴奈（北海学園大学 工学部 社会環境工学科）

今回「地下歩行空間見学会」に参加させていただき、普段何気なく歩いていては気がつかないところに様々な工夫がされていることを知り、驚きました。圧迫感を感じさせないためのルーパー式天井や、季節感を演出する照明、光を反射する素材を利用し明るく見せる天窓など、それらの工夫によって実際より広く感じ、快適さが増しているのだと実感しました。

また、ビルとの接続部分には歩行空間全体を俯瞰するための階段の踊り場を設置したり、単に椅子を置くだけではなく階段の構造に組み込んだ休憩スペースを確保しているところに感心させられました。そして、数年先の変化に対応するために柱に十分な強度を持たせ、壁を容易に取り外しすることが可能な造りにしているところに驚きました。これからも多くのビルとの接続が進み、それに伴って地下歩道沿いに新たな店舗が増えることはとても楽しみです。また、店舗の管理システムとして「空間」を所有するという広場管理者を定める兼用工作物協定についても知ることが出来、勉強になりました。地下歩行空間は予算の関係で地下街ではなく歩道というベースで建設されていましたが、接続部分の工夫などの取り組みによって地下街のようにぎやかさを持ち合わせていくのではないかと思います。

こうした工夫をより多くの市民に知ってもらう機会があるとよいと思います。地下歩行空間はシンプルなデザインの中にたくさんの工夫が施されているので、これらの見えない工夫を知ること、市民の街づくりに対する関心が高まっていくと思います。そして、市民の声を反映した、より過ごしやすい都心の街づくりが進んでいくことに期待します。

土木技術者女性の会 現場見学会に参加させていただき、貴重な時間を過ごすことが出来ました。大変勉強になりました。ありがとうございました。





<注目のWG 紹介>

企画 WG 2011 年度活動報告

企画 WG リーダー 牛山 育子



1. 活動の目的

現在、本会は発足から 30 年が経過しました。しかしながら、女性技術者の土木業界への進出も進みつつある現在でも、未だ多くの女子学生が女性技術者の情報を把握することが困難な状況です。本 WG では、短期的・中長期的観点から会の対外的活動の方向性を検討し、今後の会の活動方針を模索しています。特に、短期的には女子学生の職業選択・就

職支援に重点をおいた広報企画の試運用、中長期的には会の再構築を視野に置いたシナリオ案の検討を行っています。活動は主としてメーリングリストを活用しています。

また、2011 年度は、30 周年記念総会 WG に参加し、総会イベントのひとつである「会のシンボル・ロゴ」の募集を実施しました。

2. メンバー

	氏名	役割分担
リーダー	牛山 育子	再構築シナリオ案、シンボル・ロゴコンペ
	松本 香澄	再構築シナリオ案、シンボル・ロゴコンペ
	村上 育子	再構築シナリオ案、シンボル・ロゴコンペ
	山田 菊子	再構築シナリオ案、シンボル・ロゴコンペ 英語版・日本語版チラシ作成

3. 活動実績

(1) 会の紹介チラシ作成

(英語版・日本語版、次ページ参照)

- ・広報ツールのひとつとして活用するのが目的です。
- ・会の設立目的、活動内容等を要約したものとして作成しました(現場見学会開催の際、受入先からこういった会なのか、ペーパー1枚で集約されたものを求められることが多いため)。
- ・国際会議への対応のために英語版を作成したことに合わせ、日本語版の第2版を作成しました。

(2) 会のシンボル・ロゴ作成

- ・30 周年記念総会のイベントの一環で、土木技術者女性の会のシンボル・ロゴを作成します。
- ・作成に当たっては、①プロに委託、②受

発注サイトで依頼、③公募(コンペ)、を軸に検討し、30 周年記念総会イベントの位置付けで、PR 効果が一番高い③公募(コンペ)による方法で実施としました。

- ・プロの応募が見込める賞金を用意し、プロデザイナー等の審査員による審査を実施して、質の確保を目指すこととしました。
- ・募集は 2012 年 1 月 11 日~3 月 23 日の約 2 か月間行いました(なお、発表・表彰は 30 周年記念総会で行います)。

(3) 再構築シナリオの検討

- ・会の方向性については、議論し、会員及び外部に一定の方向性を示す予定でしたが、総会 WG でのイベント実施のため、一時中断しています(総会終了後、検討を進めていく予定です)。

○英語版チラシ

The Society of Women Civil Engineers (SWCE) is a non-profit organization that empowers women civil engineers in Japan to continue serving in the community.

Founded in 1985 by 30 members, SWCE has been the sole independent leading community for women civil engineers that covers various fields of civil engineering to support women engineers along with nurturing future women engineers in Japan.

SWCE welcomes you to join celebration of its 30th anniversary in June 22-23, 2012.

THE SOCIETY OF WOMEN CIVIL ENGINEERS
土木技術者女性の会
Doboku Opportunity, Just as You

E: info@womencivilengineers.com
W: www.women.civilengineers.com

THE SOCIETY OF WOMEN CIVIL ENGINEERS
土木技術者女性の会
Doboku Opportunity, Just as You

E: info@womencivilengineers.com
W: www.women.civilengineers.com

Copyright © 2012, The Society of Women Civil Engineers (Jpn. of. eng.)

THE SOCIETY OF WOMEN CIVIL ENGINEERS
土木技術者女性の会

THE SOCIETY OF WOMEN CIVIL ENGINEERS : SWCE

Accepting women civil engineers in the late 1980s, in accordance Equal Employment Opportunity Law. Today 30 years from then, the rate has gone up to 6,000, a 2 percent of total civil engineers in membership of Japan Society of Civil Engineers accounts for 2.2 percent of its membership, and this numbers are growing.

Why this tradition, women and jobs during E members have to such construction but it request, SWCE set issue in cooperation request, and was drafted in 2006.

SWCE's major contributions include publishing two booklets in 1999 and 2006. These booklets presented a variety of women civil engineer role models for young engineers and students who have very few women civil engineers around them. The magazine titled "30" (or "30g" in Japanese) is published biannually for its members.

* Booklets were published with the grant funded by the Tokyo Metropolitan Government.

MEMBERS OF SWCE

150 women civil engineers belong to SWCE. The majority members are in their 40s and younger, who graduated from universities in 1990s or later when Equal Opportunity Law was enforced. Members work either as freelance or employees of construction companies, consulting firms, national / local governments or universities. Membership was opened to students in 2009.

Age groups of members: 20-30 (10%), 30-40 (30%), 40-50 (40%), 50-60 (15%), 60-70 (5%).

Affiliation of members: 10% (Government), 20% (University), 30% (Consulting), 40% (Construction), 10% (Other).

○日本語版チラシ

土木技術者女性の会は、女性の土木技術者による非営利の設立した団体で、1985年に約30名で設立されました。現在、約700名の女性土木技術者が、土木のあらゆる分野における女性技術者の活躍を支えるとともに、未来の女性技術者の育成にも力を注いでいます。

2012年6月22-23日、東京で30周年記念総会を開催します。どうぞご参加ください。

土木技術者女性の会
Doboku Opportunity, Just as You

E: info@womencivilengineers.com
W: www.women.civilengineers.com

土木技術者女性の会
Doboku Opportunity, Just as You

E: info@womencivilengineers.com
W: www.women.civilengineers.com

会址 東京都千代田区千代田 1-1-1
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112
E: info@womencivilengineers.com
W: www.women.civilengineers.com

THE SOCIETY OF WOMEN CIVIL ENGINEERS
土木技術者女性の会

土木技術者女性の会の会員は土木のいろいろな分野で活躍しています。各人各様のワークライフバランスで、誇りとやりがいを感じて土木の仕事に取り組んでいます。新しい環境の中で活躍を望んでいる女性技術者を支えるために、選抜制から各会員がボランティアで出来る範囲の地道な活動を続けてきましたが、30年連続すると大きな力となり、現在は1つのまにか多岐で多様なロールモデルの活躍に成長しました。人々の命や暮らしを守るという土木の使命や意識を次世代に伝え、土木を志す仲間が増えると共に、明るい未来に少しでも貢献できると幸いです。

桑野 玲子, Ph.D.
土木技術者女性の会 歴代会長(2009)

Back in 1985...
土木技術者女性の会の設立のきっかけは、1982年に開催された土木学会創立50周年記念大会でした。集まった56名の女性土木技術者は自分以外の女性技術者に出会ったことを喜び、意見交換し、さらにおよそ30名の仲間を募り出して、1983年に土木技術者女性の会を設立したのであります。

1983年6月22-23日、東京で30周年記念総会を開催します。どうぞご参加ください。

土木技術者女性の会
THE SOCIETY OF WOMEN CIVIL ENGINEERS

土木技術者女性の会は、女性技術者の質の向上と活動しやすい環境作りのために、次の3つの目標を掲げています。

- 土木界で働く女性技術者同士の結びつきを強める
- 土木界で働く女性技術者の知識向上
- 女性にとって働きやすい土木界の環境作り
- 女性土木技術者の社会的評価の向上
- 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

会の活動
土木技術者女性の会の会員は、毎年開催される懇話会や見学会、セミナー、勉強会などの地区活動に参加しています。これまでに建設中下遊掘、電力発電機、ダムなどの建設現場を視察し、新技術、新設備は土木学会や地方自治体、大学、高等学校等との連携により、女子学生を対象としたキャリアセミナーを開催し、好評をいただいています。また、会員からの情報に加え、労働基準法の改正や労働環境の改善に取り組み、長年、女性がトンネル工事に参加したり、あるいは現場に入ったりとすることで、現場を駆け回った法律の改正を実現しました。

会からの発信
会報「30」は、会の設立当初より発行されている会報です。現在は年2回、電子版が発行されています。会の活動の報告、会員による情報などから構成されており、最近に特異なロールモデルの多い女性土木技術者の活躍が情報源となっています。

「Civil Engineer」への掲載は、土木技術者を志す女子学生向けに創設した雑誌です。前回の創刊が、女性土木技術者としてのロールモデル、女子学生へのメッセージを紹介しています。現在は、1996年版、2006年版を販売しています。

96年版の会報、土木技術者女性の中絶断絶 info@womencivilengineers.com

会員の現状
1983年6月22-23日に約30名で発足した土木技術者女性の会は、現在では、全国各地に約170名の会員がいる任意団体として、他の機関と連携しつつ多岐な活動をしています。会員は20代から、30代、40代が中心で構成されています。また、建設会社、コンサルタン、建設や大学などの教育・研究機関に所属する他、フリーランスとして活躍する会員もいます。技術士、測量士、一般土木施工管理技士などの資格取得者も多くいます。

土木技術者女性の会は、2009年に学生会員の制度も創設し、学生の参加を歓迎しています。

年齢構成: 20-30 (10%), 30-40 (30%), 40-50 (40%), 50-60 (15%), 60-70 (5%).

所属機関の割合: 10% (政府), 20% (大学), 30% (コンサルティング), 40% (建設), 10% (その他).

当会 HP にリンクが掲載されていますので、ご参照ください

<https://womencivilengineers.secure-ymc.jp/gaiyou.htm> の一番下をクリック★

○再構築シナリオ

土木技術者女性の会の今後の方向について

■背景

・会の発足後20年を経過し、土木学会、土木・建設業界や、社会からの会への期待も拡大すると共に、内容が変容している。
 ・会員数は150名前後で安定してきており、会としての組織体の確立・財政基盤の確保という一定の目的は達したと考えられる。
 ・そこで、現時点で改めて、会の存在意義を再考し、今後の方向性について確認する必要があると考えた。

■現状

・社会においては、依然として、女性土木技術者の占める割合が少ない。会のネットワークを必要としている女性土木技術者はたくさんいる。
 (⇒当会の目的3)

・坑内労働規制緩和へのイニシアティブ、土木学会におけるダイバーシティ推進の一環としての男女共同参画への取り組み(理事等への人材確保を含む)等、期待は大きい。
 (⇒当会の目的4)

【当会の目的】

企画WG

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

・これから土木技術者を目指す女子学生に対して提供できる情報源も非常に少ない。これは、就職相談を受ける大学等の教員に対しても同じことが言え、会が情報提供の一翼を担うことで、一定の役割を果たすことは可能である。
 (⇒当会の目的5)

■基本方針(案)

- ・将来は当会が不要となる時代が理想だが、現時点ではまだ当会の存在は必要であり、積極的に活動を継続する。
- ・土木技術者に占める女性の割合の増加をめざし、引き続き、PR・ネットワーク活動に力を入れる。
- ・未来を支える女子学生の職業選択・就職支援に力を入れる。(第二新卒・転職も同様・関係者への働きかけを含む)
- ・他の組織等による活動との連携を活用するとともに、当会は女性土木技術者のための組織として継続する)

■活動方針(案)

長期方針(2015目途)	中期方針(2009~14)	当面の活動	具体的方策
多様な人材が働く社会の実現 (ダイバーシティ推進の一環) ↓ 土木技術者に占める女性の割合の増加を目指す (割合増加⇒発言力を持つ・世の中を変える力を蓄える) ※女性割合が〇%を越えた時点で、会の存続の必要性や会の目的を再検討する。	・女性土木技術者の存在をさらに社会にPRする。 ・女性土木技術者のネットワークを確立し、さらに拡大する。 ・今後、土木分野へ参入する女子学生への職業選択・進路選択を積極的に支援する。	・HPを女性土木技術者のポータルサイトとして活用(情報発信・ネットワーク) ・就職支援パンフ等印刷物を活用し、PR活動を進める。 ・会内外向けの活動・イベント等の実施により、外部関係機関との連携を実現する。	・HP運用WG (ネットワーク活動に繋げたい) ・就職支援パンフ販売促進WG (就職支援業務も含む) ・総会30回記念イベント ・倫理規定WG ・坑内労働WG ・シンボルマークコンペ・.....

■情報の共有化・・・地域による男女協働参画についての取組姿勢の差。特に、協働促進のための組織や議論の場が、首都圏以外では乏しい。

- ⇒ 全国組織としての本会が、会員が知り得た情報を全会員に発信することで、情報共有。様々な働きかけ等、地域(地方)へ還元。
- ⇒ (具体策) 土木学会男女協働参画HPにリンクを貼る 等

■将来に向けての課題・・・活動の絞込み・Mission Statementの明確化・・・地区活動の活発化・活動参加会員の増加

- ⇒ まず、土木技術者女性の会 30周年記念行事でPR

■新たな課題・・・東日本大震災を受け、会としての災害復興支援について、今後検討 → 輪に寄稿、地区勉強会での議題、会の被災者は会費を減免 等

【事務局便り】 「会費の自動引落システム」利用のお願い

土木技術者女性の会では、会費のお支払について、会員皆様の利便性の向上と会計・事務局の業務削減のため、ゆうちょ銀行総合口座の自動払込みサービスを利用した「会費の自動引落システム」を導入し、原則として全会員の皆様の利用を推奨しております。2011 年度末現在、53 名にご利用いただいております。

このシステムでは、一度、お申し込みいただくことで、その後の会費の払込みの手間が不要となります。また、多くの会員の皆様に利用していただくことで、会計と事務局での照合作業がより簡便となり、メリットが向上します。どうかご理解頂き、ご利用くだされば幸いです。

自動引落しのメリット

1. 国のゆうちょ銀行にお持ちの総合口座からの払込みが可能です。
2. 手数料が安くなります。(窓口 120 円、ATM80 円 → 自動払込 25 円に！)
3. 郵便局に振り込みで行く手間が省けるとともに、振り込み忘れを防げます。
4. 事務局の負担の軽減に貢献できます。

自動引落しの仕組み

年会費の振替日は毎年 5 月末日です(振替日が休日のときは翌営業日となります。振替日の前日までにご指定の口座にご準備下さい)。通帳には「土木技術者女性」と印字されます。

振替ができなかったとき

第二回振替日の 6 月 15 日に振替させていただきます(振替日が休日のときは翌営業日となります。振替日の前日までにご指定の口座にご準備下さい)。また、第一回、第二回ともに振替ができなかった場合は、後日、事務局よりお知らせいたしますので、同封する用紙を用い郵便局にて振り込んでいただきます。

申し込み方法

自動払込利用申込書に必要事項をご記入、捺印いただき、下記自動払込利用申込書送付先までご郵送下さい。申込書および申込書の記入例はウェブサイト(<https://womencivilengineers.secure-ymc.jp/>)「会員のページ」をご覧ください。

自動払込利用申込書ご記入に際しての注意事項

1. 申込書の記載事項または捺印等に不備がありますと、ご提出いただきましても振替手続きが行えない場合がありますので、ウェブサイトの記入例をご参照下さい。
2. 新規申込は、毎年 3 月末日(必着)までにお願ひ致します(締切日までにお申し出のない場合、会費請求書を 5 月初旬に郵送させていただきます)。
3. 自動引落しのご指定口座の変更連絡は、毎年 3 月末日(必着)まで自動払込利用申込書を事務局会費請求係宛にご郵送下さい。
4. 自動引落中止のご連絡は、必ず文書にて毎年 3 月末日(必着)までにお願ひ致します(以降着信分につきましては、返金等の手続は出来ませんのでご了承願ひます)。

4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月	11月		12月	1月	2月	3月	
新年度	初旬	会費請求書発送	15日	第 2 回 会 費 振					中旬	未納会費請求書 発送				末旬	受付締切り ・新規申込 ・変更連絡 ・中止連絡
	末日	会費振替日													
次年度分利用申込書随時受付中															

自動払込利用申込書送付先: 土木技術者女性の会 事務局会費請求係 佐藤亜紀子
〒165-0026 東京都中野区新井3-14-8 内山工芸染色(株)内

口座番号等の情報管理について

事務局会費請求担当のみが取り扱うことを徹底し、会員情報の漏洩を防止致します。

問合せ先

ご不明な点は、事務局会費請求係までメールまたはファックスにてお問合せ下さい。

事務局会費請求係 E-mail: webmaster@womencivilengineers.com FAX: 03-3387-1519

【事務局便り】 記事の紹介

新聞、書籍にて当会員が取り上げられた記事を紹介します。

◎掲載：2012年2月7日、2月15日、2月24日、2月28日、3月2日 建通新聞 中部版

※この記事は、(株) 日刊建設通信新聞社より許可を得て掲載しています

< 2012年2月7日掲載 >

建設業で働く
女性たち



もりせ まこと
森瀬 真琴さん
(JR東海コンサルタンツ)

「10年に魅力を感じながら、住宅などの建築ではなく土木を選んだのは、「より公共的で、1つのものをたくさんの人に使うのもうえる」という点が理由。「いつか自分が設計したものが、自分の子どもや孫に見てもらえたらいいな」と語る。

入社時は男性の多い世界に飛び込むことに不安も感じたという。しかし実際に入社してみると、不自由を感じることもなく、現場に常駐する仕事を経験したりと「男女差のない扱いをしてもらえて安心」した。今は、「男性も女性も関係なく活躍できるかどうかは自分次第」と感じている。

現在入社4年目。構造設計部で新幹線、在来線の構造物の計画、設計を担当している。跨線橋の耐震補強診断、身延線の災害復旧工事の設計などに携わってきたが、「多くの経験を積んで信頼して仕事を任せてもらえるようになった」という言葉に強い決意がにじむ。「1000年先まで残るような仕事をやっていきたい」と目標は高い。(滝)

「活躍できるかは自分次第」

< 2012年2月15日掲載 >

建設業で働く
女性たち



ひらなが さちこ
平永 佐知子さん
(JR東海コンサルタンツ)

「日々の生活を縁の下で支える分野に携わりたい」と、土木の道を目指した。大学院で地盤工学を専攻し、修了後はJR東海に入社。現在はJR東海コンサルタンツに所属し、鉄道の構造物の計画・設計に携わる。

入社時、新幹線の保守管理を担う部署に配属され、そこで見た、絶対に対に事故を起こさないという強い責任感を持って現場作業員の姿に感動した。鉄道、電気、水道などは「あつて当たり前」な環境になっているが、それを支えている議論の前に、「大切に

るのが土木。土気の高い人たちの日々の努力に支えられている」との思いを一層強くした。

男性の多い業界、女性であることでどうしても注目を浴び続けてきた。しかし「それがいい緊張感になって成長できた」と前向き。現在は、土木学会タイパシニティ推進小委員会委員や土木技術者女性の会・中部地区世話役を務めるなど、業界の女性の先頭を走り続けている。

業界内の「女性の活用」という点に関しては、「女性が働きやすい環境をつくる」という議論の前に、「大切

るのには、今後の業界の発展には、男女を問わず優秀な人材を確保することが不可欠。そのためにも、だれもが働きやすく魅力ある業界をつくる」という視点だ」と考えている。

子育てと仕事の両立の中で学んだことも多い。百ます計算で有名な陰山英夫氏の言葉「親が伸びれば子どもも伸びる」ことを子育てで実感。会社でも同様後輩と組んで仕事をすすめる時も「まずは自分が常に努力することが大切。自らの成長なくして、いいものはできない」。自分に厳しい姿勢に強い覚悟が見える。(滝)

「女性であることが緊張感に」

建設業で働く
女性たち



なかにし ともみ
中西 利美さん
(中日本建設コンサルタント)

いづが、定年退職の日
に、息子からメッセージ
カードをもらった時
には、「思わず泣いて
しまった」と顔をほこ
るほせる。

これまで、若宮調整
池や中部国際空港の上
下水道施設の計画など
に携わってきた。「わ
れわれの仕事は住民の
命を守っている」との
誇りを胸に、「仕事が
好き」と言い切る。

先輩として、建設業
界に入ってくる女性た
ちには「男性ばかりの
中で働き続けるには、
己を鍛えなさい」と伝
えている。

技術を磨くことに男
女は関係ない。常に女
性初」といわれながら
道を切り開いてきたか
らこそ、「結局仕事を
する上で大切なことは
男性も女性も同じ」と
の言葉に重みがある。

住民の命を守る仕事に誇り

会社での自分を「刺
し身のツマ」に例え、
「主役ではないけれど、
ないときみしいでし
よ」と笑う。
女性の技術者として
の人は前例がなく、
常に珍しい存在として
注目を浴び続けてき
た。だから「仲間とい
かに調和していくか」
が大切だと考え、「調和
をとって職場を明るく
する」が努めてきた。

「これからの女性は
手に職を付けなければ
の両立は大変だったと
いうのが、定年退職の日
に、息子からメッセージ
カードをもらった時
には、「思わず泣いて
しまった」と顔をほこ
るほせる。

(滝)

5日付本紙に
「座談会」掲載
当コーナーは、建設
業界で働く女性を取り
上げ、紹介してきまし
た。一線で活躍する彼
女たちの姿から、男社
会といわれる建設産業
界であっても、女性が
活躍できる場はたくさ
んあると感じられたの
ではないでしょうか。
しかし、女性が働き続
けるにはまだまだ課題
もあります。
当コーナーに登場し
た女性数人に集まって
もらい、これからの建
設業を話し合ったため、
国土交通省中部地方整
備局、愛知県建設業協
会、建設産業専門団体
中部地区連合会、建通
新聞社が共同で「建設
業女性就業者（建築、
土木技術者）懇談会」
を開催しました。5日
付の紙面に掲載しま
すので、「期待」くださ
い。

～ 次ページからの記事 ～

◎掲載：土木施工 2011年4月～2012年3月号
※この記事は、(株)オフィス・スペースより許可を得て掲載しています



土木がすき!!! この人にあいたい①



西山芳一

「人」がみえる構造物を撮る!

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

鹿島建設

石塚 喜望



なぜ会いたいのか

私はゼネコン入社3年目で、現在、圏央道の裏高尾橋(仮称)の現場で施工管理を行っています。土木写真家の西山芳一先生のお宅に伺ってインタビューしました。

土木写真家ってどんな仕事? なぜ、山などの風景や建築物ではなく、土木構造物を被写体を選んだんだろう? と素朴に疑問に思っていました。技術者ではない観点から見た土木の魅力をうかがいたかったので、今回インタビューをさせていただきました!

土木に関わるようになったきっかけ

石塚:土木構造物を撮るようになったきっかけは何ですか?

西山先生:もともと企業のコマース写真などを撮っていた。ある日、奥只見(新潟県の福島県寄りの地方)に紅葉を撮りに行ったら、たまたま三国川(さぐりがわ)ダム建設現場に通りに行った。スケール感到感動し、いつかあんな大きなダンプが働く姿を間近で撮りたいと思った。そのときはまだ「土木」ということも、それがダムだということも知らなかった。このことがきっかけで、いつか土木を撮りたいと思った。その頃、土木写真家はほかにいなかったのもあって、これは面白いと思った。

土木の魅力

石塚:西山先生から見た土木の魅力は何ですか?

西山先生:何よりもスケール感がすごい。人間が作るものの中で一番大きく、そんなものが作り上げられていく面白さがある。

一番最初に撮った土木構造物が、関西国際空港の連絡橋を架ける現場だった。フローティングクレーン(重い物を吊り上げて移動させるために特化した船、船にクレーンを搭載したもの)2台で、橋の一部となる大きな鉄の部材を吊り上げるのを、船上から撮る際にその規模に驚いた。とても撮り甲斐を感じる。

コンクリートで昭和10年までにつくられたダムに限定して撮ってみたことがある。150位あったかな。その時期のダムからは、つくった人の顔が見えた。小さめのものが多かったり、機械だけでなく人の手がかかれた跡が見えたりするせいか、1つ1つがヒューマンスケールであると感じる。つくる作業も、周辺環境へも無理してないと感じる。また80年程度時間を経ているので、水の流れや苔やコンクリートの色などのエイジングの跡が見えるのも魅力である。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

西山先生:ぜひ古いものを見てください。そこから「人」を感じてほしい。丁寧にものづくりをしてほしい。また、私が撮りたくなるようなものをつくってほしい。そして、技術者として構造物に名前を残してほしい。名前は宣伝するという面だけでなく、責任を負うという意味もある。

インタビューを終えた感想

西山先生は、今までに出会った橋やダムを擬人化して話されます。それが大変印象的で、構造物とその後ろに見える「人」への暖かい気持ちを強く感じました。また、「俺が撮りたくなる土木構造物をつくってくれ」という言葉に、思わず、そんなものづくりができる技術者になるぞ! という気持ちになりました。



西山芳一先生 石塚喜望

西山芳一(土木写真家)

1952年東京都生まれ。東京造形大学デザイン学部写真学科卒。(有)キャン代表。土木を撮る会事務局長。主に日本全国の施工中・竣工直後の土木構造物を撮影。最近は文化財を中心に近代の土木遺産も撮影している。



土木フォーラム



土木がすき!!! この人にあいたい②



日下部治

「チャレンジングな選択を!!」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

東京工業大学
小松本 奈央美



なぜ会いたいか

私は、現在東京工業大学修士2年生で土質研究室に所属しています。今回、私の恩師である日下部先生にインタビューさせて頂きました。

学部から3年間、土質研究室に所属していたのですが、先生と話す度に見識が広くて勉強になることがたくさんありました。そこで、もっとたくさん話を聞きたい!と思い、今回インタビューをさせて頂きました。

土木に関わるようになったきっかけ

小松本:なぜ、土木工学科に進学したのですか?

西山先生:小さいころから、漠然と建築家になりたいと思っていました。高校の頃、東京オリンピックなどで都市がどんどん変わり始め、都市計画がおもしろそうだなと感じたり、自然と接してみたいという気持ちもあり、農業土木よりも、もっと自然に近いような山岳の中の現象、地形解析などに興味を持ちました。

東工大で修士をとってから、他の企業にも内定を貰っていたのだけれど、助手になり、その後イギリスのケンブリッジ大学で博士号を取得しました。最初は英語ができなかったから、あまり行く気にはなれなかったのですが、人生というのは折れ線のように、いろいろなところに節目、つまり人生を選択する機会があります。その中で一番チャレンジングな選択をするというかもしれません。私もこうやって与えられたチャンスの中で一番チャレンジングな選択をしたと思っているし、それが今までの私の経験のサマリーでもあります。

土木の魅力

小松本:日下部先生にとっての土木の魅力は、何でしょうか?

日下部先生:土木というのは、社会の構成全体であって様々な分野と結びついています。また、人間がどうやって生きてきたのか、その積み重ねでもあります。人類の長い歴史の中で、先人たちと私たちは同じ空間に存在していて、同じ歴史の軸の一員として存在している。土木をやっていると、長い時間軸を持って、社会の様々な分野、自然科学、文化、地形や人口など、変化する事象を考え

始める。つまり、空間的拡がりや時間軸が一体感となって自分の中に構成されます。その中で自分がどういう責任を果たしていくのか。それを考えるのが土木の魅力だと思っています。

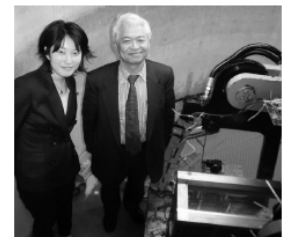
土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

日下部先生:社会や人間が必要としていることは多くあって、その中で土木でなければできないことがたくさんあります。数年前、地方の中核ゼネコンがどんどん倒産していったことがありました。これでは、災害のときに困ります。私たちは、長期的に物事を見なくてははいけませんし、それには、人口動向が極めて重要だと思っています。人口のことをわかっていなければ、社会のシステムがどうあるべきか描けません。同じ地球上に、何世代も重なって生きているのですから。科学としての技術進歩だけで満足せずに、社会をどう変えられるかというのが土木では非常に重要なので、若い人たちには是非それを考えて欲しいです。

インタビューを終えて

「チャレンジングな選択をする」という言葉が非常に印象的でした。私は、これから就職しますが、その中で、様々なきっかけがあって選択肢が生まれたときに、よりチャレンジングなことに挑んでいきたいです。「若いときの苦労は買ってでも」という言葉がありますが、それを苦労ととらえずに、チャレンジしているんだと考えれば、自分自身のモチベーションも向上するのかなと思いました。

また、先生の奥様は、単身で大学の先生をやっているということもあり、女性への理解は抜群で、一人でも家事をこなすそうです。思わず、先生のような旦那さんが欲しいと思ってしまいました。

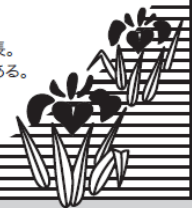


小松本奈央美 日下部治先生

日下部治(東京工業大学教授)
1948年東京都生まれ。
東京農工大学農学部卒業。
東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了。
ケンブリッジ大学大学院Ph.D過程修了。地盤工学会会長。
現在、研究者、教育者として学生の指導に勤しむ毎日である。



未来フォーラム





土木がすき!!! この人にあいたい③

中村英夫

「様々な視点から土木を見る」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

東京都市大学
安形 早織



なぜ会いたいのか

私は、東京都市大学都市基盤工学専攻修士課程2年生で、地盤の研究室に所属しています。今回は、東京都市大学の学長である中村英夫先生にインタビューします。

中村英夫先生は建設現場と大学という二つの立場を経験されておられ、多様な視点をお持ちです。これまでの経験や土木の将来をどう感じておられるのかをおたずねしたいと思います!

土木に関わるようになったきっかけ

安形:土木を学ぼうと思ったきっかけはなんですか?

中村先生:大学入学後に専攻を選択する際、土木工学科が入りやすかったのが1番の理由である。しかし、土木を選択してからすぐに「佐久間ダム」という映画を見た。佐久間ダムは、日本で初めて大規模な建設重機を用いた工事であり、ダイナミックかつロマンチックな映画であった。そして、一番印象的であったのが佐久間ダムの湖底に沈む村で行われた最後の秋祭りの映像とバックミュージックにショスタコーヴィチ交響曲第5番が流れた場面に感動し、土木に入って良かったと思った。入るきっかけよりも、入ってから良かったと思うかどうかが大切だ。それから、様々な現場を見学したり経験したことによって土木を知れば知るほど好きになっていった。

土木の魅力

安形:中村先生から見た土木の醍醐味とは何ですか?

中村先生:私が帝都高速度交通営団(現:東京地下鉄)の現場に関して記した本がある。その内容を思い出すと今でも感動して目頭が熱くなる。それほど入れ込んでいた現場だった。やはり、構造物ができた時の感動が土木の醍醐味であると思う。かつて学術会議会員の本四架橋への見学会がありそれに参加した様々な分野の代表的な学者と話をしたことがあったが、彼らは異口同音に土木工学を羨んでおられた。現代では、女性も憧れるかっこいい仕事の1つであると思っている。

安形:土木と学長の仕事の違いはありますか?

中村先生:他の仕事と比較して、土木の仕事は、多くの人と色々な仕事をしなければならない。そのことを考えると、土木職を経験した人は、学長職に合っているかもしれない。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

中村先生:土木学会の会長をしていた際は、パイブリッジができて、津軽海峡のトンネルができて、一番華やかな時期であった。今は、残念なことに昔と比較して大規模で面白いプロジェクトがあまりない。しかし、土木に限らず様々な分野で、海外には多くの魅力的な仕事がある。ここ数年、海外での事業があまりうまくいかないこともあり、消極的になっているが、広い視野を持ち海外でも活躍していかなければならない。学生や若手には、海外に行きたい! という意気込みが欲しい。海外には、面白いこと、楽しいことがたくさんある。チャレンジ精神を忘れないで欲しい。

インタビューを終えた感想

中村先生は、様々な経験を経て“土木”を好きになられたということがわかりました。私も、多くの現場に触れたくさん学び、今以上に土木を好きになりたいです。ぜひ海外の現場へ行きたいと思いました!



中村英夫先生 安形早織

中村英夫
1935年生まれ。東京大学工学部卒業、帝都交通営団、東京大学生産技術研究所、東京工業大学社会工学科、東京大学土木工学科等を経て現職。
土木学会会長、世界交通学会会長等を歴任



土木がすき!!! この人にあいたい④

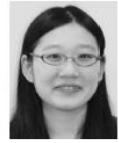
福留脩文

「土木の力で自然再生を図る」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

首都大学東京大学院

中嶋 彩乃



なぜ会いたいのか

私は首都大学東京大学院で土木材料学の研究室に所属する学生です。西日本科学技術研究所の代表取締役である福留脩文(ふくどめしゅうぶん)さんにインタビューしました。一度人間が変えてしまった自然を土木の技術で本来の自然の状態に近づけるという「近自然工法」を紹介した新聞記事で福留さんを知りました。改めて土木の世界は広いと思いました。土木の技術でどのように環境問題の解決を図るのに興味があり、ぜひお会いしたいと思いました。

土木に関わるようになったきっかけ

中嶋: 福留さんが土木にかかわるようになったきっかけを教えてください。

福留さん: 生まれも育ちも土木で、自分が土方^{注)}の3代目でした。文学も含めて『ものを作る』が好きだったこと、家を継がなければいけないということもあり、迷うことなく土木の道に進みました。その後、自分の好きな土木の姿である近自然工法の道へ進んで行きました。

注) 土方(どかた、つちかた)とは、土木作業員の俗称。現在、建設業では、土工(どこう)が正式名称になっている。

土木の魅力

中嶋: 福留さんにとって土木の魅力は何だと思いますか?

福留さん: 1972年の国連人間環境会議で地球規模の環境問題が話し合われ、生態系の復元が叫ばれるようになりました。このときに土木が変わると思い、土木の技術で環境問題に取り組むことにしました。自然を変えてしまったのも土木であるし、もう一度取り戻すのも土木の仕事だと思いました。自然を相手にした環境問題に取り組んでから10年間答えが出ませんでした。1986年に、スイスの大学で講師をしている弟に「環境問題をやるにはスイスに来るしかない」と言われました。スイスに行き、小さな生き物の環境を護る大事さに気がつきました。それは、人間に直接有用な生き物だけではなく、生態系のピラミッドの底辺にいる生物をどうす

るかという考え方が重要だということです。大気、水、土壌のはたらきをその土地本来が持つ仕組みに近づけることで、生物の種類と個体数がともに増加し、自然本来の状態に近づきます。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

福留さん: 土木の中心テーマは経済基盤から社会基盤へと変化して来ています。その双方に自然の復元といった課題が含まれると思います。都市のすぐ近くに自然があることは、福祉にもつながります。近自然工法では、本物の自然をいかにデザインできるかが重要です。若いときに本物の自然をデッサンする、生態学を勉強することが大切です。その方面をやる土木の人がもっと増えて欲しいと思います。

インタビューを終えた感想

大学では、コンクリートや鋼材等で作られる土木構造物が授業のメインとして取り上げられています。環境問題に関連した授業では「地球温暖化とは何か?」といった面に重点が置かれ、土木技術を通して何か出来るのかといった点にはあまり触れられていないように感じます。インタビューを通して、改めて土木の世界の広さや土木技術の可能性を感じました。私のような学生や若手の技術者が中心となり、地球環境問題と土木構造物の良いバランスや関係について考えていかなければいけないと思いました。



中嶋 彩乃

福留 脩文さん

福留脩文 (西日本科学技術研究所・代表取締役 昭和18年高知県生まれ。東海大学工学部土木工学科卒業。日本の近自然工法の第一人者として、河川や登山道等の修復に取り組んでいる。)





土木がすき!!! この人にあいたい⑤

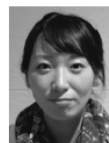
馬淵澄夫

「国家のグランドデザインをつくる!」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

横浜国立大学

吉田 早智子



なぜ会いたいのか

私は横浜国立大学修士2年生で、土木の勉強をしています。前国土交通大臣でもあり、横浜国立大学OBでもある政治家の馬淵澄夫議員にインタビューしました。

横浜国立大学OBとしてだけでなく、歴代の建設大臣・国土交通大臣では初めての土木出身ということで、尊敬する先輩の一人です。なぜ土木という道から政治家に進んだのだろうと興味が湧きました。

土木に関わるようになったきっかけ

吉田: 土木に関わるようになったきっかけは何ですか?

馬淵先生: 小学6年生のころに田中角栄氏にあこがれて、政治家になりたいと思うようになった。田中角栄氏は地場の建設業から這い上がってきた政治家であり、日本の高度成長の象徴のような人である。その桁外れなパワーに憧れ、自分も政治家になることを目指し、土木の勉強をする道を選んだ。修行のつもりで5年間民間の建設会社で働いた後に政治家になった。当初は、土木でお世話になった先輩・後輩に対して建設業から離れたことについて申し訳ない気持ちもあって、国土交通関係には携わらなかった。しかし、耐震偽装問題で建築に関わり、やがて道路問題で建設・土木の世界に再び深く関わるようになった。

土木の魅力

吉田: 馬淵先生から見た土木の魅力は何ですか?

馬淵先生: インフラは国家の背骨のひとつである。例えばITS(高度道路交通システム)の発達により、運転ができない人でも電氣的制御によって移動が可能になる。車という概念を変えるような新しい小さなユニットの公共交通機関が生まれる可能性もある。国土交通というのは国家をデザインするきわめて重要な部分である。

吉田: 100年後の土木業界はどうなっていると思いますか?

馬淵先生: 生活や経済を変えていくような、道路などのインフラと移動体が一体となって融合した形が100年後の新しい

国の姿であって欲しい。キーワードはITS。想定するイノベーションの中で「地方と中央のあり方を今後どう展開していくか」など、新しい生活環境を考えながら新しい国を作り上げていく。これらを担保していく社会資本整備が今後必要である。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

馬淵先生: 土木は国家の背骨であり礎を担う仕事である。国家のデザインを変えることは、技術者がいないと成り立たないものである。自信をもって一生取り組んでほしい。私も政治家として国家のグランドデザインを変えるよう頑張ります!

インタビューを終えた感想

メディアを通してではなく実際に馬淵議員にお話を伺うことで、本気でこの国を変えようという意気込みと、壮大な国家ビジョンをもたれていると感じました。馬淵議員から「政治家としてこの国が発展していくように全力を注いで頑張る」という心強いお言葉に接し、私も少しでも明るい国家をデザインしていく一員になれるように今できることを一生懸命行っていきたいと思いました。



馬淵澄夫先生

吉田早智子

馬淵澄夫(政治家)

1960年奈良県生まれ。横浜国立大学工学部土木学科卒業。国土交通大臣等を経て、現在は内閣総理大臣補佐官を勤め、東北地方太平洋沖地震による災害および原子力発電所事故対応担当として震災復興に取り組んでいる。1男5女の6児の父で、自身の両親と妻の母親と同居する11人家族の大黒柱。趣味はボディビルディング、特技は料理。





土木がすき!!! この人にあいたい⑥

加藤絵万

「無駄なことは一つもない、と思うように」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

東京工業大学
小崎 香菜子



なぜ会いたいか

私は現在、東京工業大学土木・環境工学科の4年生で鋼構造の研究室に所属しています。今回、港湾空港技術研究所の構造研究チームで主任研究官として活躍されている、加藤絵万さんにお話を伺いました。女性の主任研究官として、日々研究に励んでいらっしゃる加藤さんに、研究の楽しさや土木の魅力をお話したいと思い、インタビューさせていただきました。

土木に関わるようになったきっかけ

小崎: 大学で土木工学科を選択した訳と、今の職業に就かれた理由を教えてください。

加藤さん: 高校生の時、大学受験をするにあたって漠然と、「公園を作る人になりたい」と思っていたので、大学進学時に工学部の中の建設系を受験しました。土木工学科を選んだのは、実ははっきりした理由はなく、他の学科に行くことを考えるとあまり気が乗らなかつた、というのが正直なところです。その後、コンクリート系の研究室に所属し、そこでコンクリートの研究を進めているうちに面白いと思い始めたので、大学院進学の際にもコンクリート系の研究室に入りました。さらに、研究が楽しくなってきたので博士課程に進み、修了した時には研究職に就きたいと思い、現在の職場である港湾空港技術研究所に就職することになりました。

土木の魅力

小崎: 土木に関わってきて面白かったこと、今の研究所で土木っていいなと思ったことは何ですか?

加藤さん: 今、土木構造物は維持管理の時代に入ったと思うのですが、私たちはそのためのシステム作りや運用方法の考案なども仕事にしています。そのために、国の持っている現場に実際に行って実物の構造物を見て、それを使って試験を行うこともあります。たくさん構造物を直接扱えるので、今の研究所に来てよかったと思います。また、海外で維持管理についての会合が開催される時、今まで行ったことのないような国に行くと他国の人の話を聞けることも面白いと思います。土木の

仕事は一人では絶対できないことばかりなので、皆でやる、という雰囲気も好きです。もう一つ、土木の話ではありませんが、現場近くでの食事が楽しみです。というのも、海に関わる仕事なので港のいろいろな現場に行くことが多く、海の食べ物は美味しいことが多いので、よかつたな、と思っています。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

加藤さん: 私は、無駄なことは一つもない、と思うように心がけて日々生活しています。新聞を見たり、人と会ったりすることも、無駄なことではないと思います。このインタビューも、自分を見つめ直すいい機会だったと思います。あと、特に学生さんに対してですが、日本のことをよく知ることや、英語も大事ですが日本語をしっかりと話せるということが必要だな、と感じます。

インタビューを終えた感想

加藤さんはとても気さくな明るい女性で話しやすく、インタビューに行くまでの「港湾空港研究所に勤める主任研究官」というイメージが大きく変わりました。私も日々行動する際には、無駄なことはないと思うように生活できればと思います。



小崎 香菜子 加藤 絵万さん

加藤絵万
1975年茨城県生まれ。
東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻博士課程修了。
学部4年生時よりコンクリートについての研究を重ね、現在、港湾空港技術研究所の構造研究チームの主任研究官として活躍。
港湾構造物の維持管理に関する研究を中心に、現在も日々研究に取り組んでいる。





猪がすき!!! この人にあいたい⑦



猪瀬直樹

「人生を超えるものをつくる」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

大成建設(株)
東京支店
土木部技術部技術室
中根 友理



なぜ会いたいのか

私はゼネコン入社4年目で、現在、東京支店土木部技術部技術室で仮設構造物の設計業務を担当しています。昨年までは渋谷駅前の明治通り地下の東急東横線地下化工事で現場監督をしていました。

今年2月に、(社)東京建設業協会主催の「これからの東京の成長戦略～建設業への期待～」という東京都副知事の猪瀬直樹先生の講演会に出席したことがきっかけで、ぜひご本人にお会いし、土木に対する率直なご意見をお聞きしたいと考えました。

土木に関わるようになったきっかけ

中根:土木に関わるようになったきっかけを教えてください。

猪瀬先生:鉄道や道路をはじめ生活に欠かせないインフラ産業を運営するのが東京都の役目でもあります。この先何十年のためには、今ただ造るだけでなく、どのようにしたらお客様が使いやすいかを考えることがとても重要です。

昔、高速道路のサービスエリアで食事をしたとき、もっと美味しいものが食べたいと思いました。どうすればお客様に喜ばれるもっと美味しいものが提供できるのか、もっとお土産を充実させたらお客様が増えるのではないかと、など運営から見直す必要があると感じました。

お客様の目線で、何をどこに造るか、どのくらいの費用がかかるか、どのくらいの利用があるか、など経営の観点を含めて土木を考えています。

土木の魅力

中根:土木の魅力を教えてください。

猪瀬先生:スケールの大きさです。昭和初期に日本が貧しい頃、若い田中角栄氏は土木作業員として働いていました。そこで一緒に働いていた職長の「我々は地球の彫刻家だ」という言葉に感銘を受けて、国のために奮い立ったそうです。

日本が豊かになるために必要不可欠な土木の巨大さは、関わった人の人生観を変えたいと思います。

土木への期待

中根:土木への期待をお聞かせください。

猪瀬先生:これからは国際競争力を鍛えて欲しいです。日本の持つ技術は世界に負けていませんので、例えば維持管理分野などから他国のやり方になじみ、プロジェクトの基盤を作ることができれば、海外でもそこから大きな仕事へ広がっていけるとと思います。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

猪瀬先生:自分の人生を超えるものをつくること。これは、作家でもある私が目指しているものに通じることです。私の死後何十年経っても、書いたものが形になって残り続けたら、自分の人生を超えるものをつくったということになります。そういう意味では土木の世界も同じです。何のために働いているのかを考え、誇りを持って、自分の人生を超えるものをつくることに挑戦して欲しいです。

インタビューを終えた感想

猪瀬先生の親しみやすさに驚きました。

私もひとりの土木技術者として誇りを持って、自分の人生を超える仕事と向き合おうと思いました。



猪瀬直樹先生 中根友理

猪瀬直樹

1946年、長野県生まれ。作家。
87年『ミカドの肖像』で第18回大宅壮一ノンフィクション賞、『日本国の研究』で96年度文藝春秋読者賞を受賞。02年小泉首相より道路公団民営化委員に任命される。06年東京工業大学特任教授、07年東京都副知事。
最新刊『言葉の力「作家の視点」で国を作る』(中公新書)





土木がすき!!! この人にあいたい⑧

伊藤 叡

「描きたいのは“本気”のモノづくり」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

東京大学大学院
佐藤 真理



なぜ会いたいのか

私は東京大学大学院で地盤工学を学ぶ博士課程の学生です。虫プロダクション株式会社代表取締役社長の伊藤 叡さんにインタビューしました。

虫プロダクションは『伊勢湾台風物語(1989)』、琵琶湖疏水を設計・施工した田辺朔朗を描いた『明日をつくった男(2003)』、台湾の烏山頭ダムを造った八田興一を描いた『パッテンライ!!～南の島の水ものがたり～(2008)』など、土木をテーマにした映画を数多く製作しています。先日パッテンライ!!を見て八田興一の生き方に感銘を受け作品の制作現場に興味を持ったことが取材のきっかけです。

土木に関わるようになったきっかけ

佐藤:土木に関わるようになったきっかけを教えてください。

伊藤社長:虫プロは水の形や嵐を描くのが得意だろう、ということから映画『伊勢湾台風』の制作を頼まれたのがきっかけです。だから最初のきっかけは偶然ですね。それから色々土木を主題にした作品を制作していくことになりました。虫プロはずっと手塚治虫の作品が持つヒューマニズムや人と自然といったテーマを持つ作品を作り続けています。土木を題材にした作品も技術者の夢や志、自然との共生を描いているという点でそうした虫プロが大事にしてきたテーマと原点は同じです。土木映画といえば虫プロと言われるようにしていきたいですね。

佐藤:どんな人たちに土木映画を観てもらいたいですか?

伊藤社長:家族みんなで観て、観終わったら色々映画について話しあってもらえたら一番いいですね。映画をみた子供たちに土木技術者が頑張っている姿を、土木の大切さを伝えたいです。かつての『黒部の太陽』のように、映画を観た子供たちの中から土木技術者を目指す子供が出てきたらとても嬉しく思います。

土木の魅力

佐藤:伊藤社長からみた土木の魅力とは何だと思えますか?

伊藤社長:土木の凄い所はずっと昔に作ったものが今でも機能している所だと思います。100年たっても昔と変わらず使われている。そういう姿をみると我々も100年たった後にあの映画は素晴らしいといわれるような作品を作っていきたいと励まされます。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

伊藤社長:大事なものはものづくりに対する“本気度”です。かつて土木技術者達はその地域の人たちの為に、予算の制約を受けながらも国と闘ったりしながらとにかく本気で事業に取り組んだ。だからこそ100年たった今でもそうして作ったものが使われ続けているのだと思います。本気でものを作るというのは土木以外でも勿論必要な事ですが、土木では人々の生活に直結する分、特に大事になってくると思うので頑張してほしいです。

インタビューを終えた感想

伊藤社長の作品制作に対する情熱が非常に印象的でした。インタビューでは土木の事だけでなくアニメ制作に関する様々なお話も聞かせていただき、とにかく一生懸命やらなければ良いものは作れないという事を教えていただきました。私もこれから周りの人たちに貢献できるように“本気”で研究に取り組んでいきたいと思えます。



伊藤社長

佐藤真理

伊藤 叡

虫プロダクション株式会社代表取締役社長。1961年に手塚治虫によって設立された(旧)虫プロダクションのフィルム編集部に入社。『鉄腕アトム』『悟空の大冒険』『ムーミン』など作品に参加。1973年の虫プロの倒産後、虫プロの全作品の権利を受け継ぎ、労働組合を中心に、1977年に設立された現在の(新)虫プロにおいて社長に就任する。虫プロダクションは『明日をつくった男』や『パッテンライ!!～南の島の水ものがたり』等数多くの土木をテーマとした作品を制作している。





土木がすき!!! この人にあいたい⑨

杉田 俊介

「大分県には日本一の橋がある!」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!



埼玉大学
白石 有理

なぜ会いたいのか

私は埼玉大学工学部建設工学科で土木を学ぶ学生です。今回は、私の出身地である大分県に九重“夢”大吊橋という素敵な観光名所をつくった川田工業株式会社の杉田俊介さんにインタビューしました。九重“夢”大吊橋は歩行者専用の橋としては日本一の高さと言われ、私も過去何度も訪れたことがある自然豊かな観光スポットです。大分県に日本一の橋を架けたことに対する感想などを、率直に聞いてみたいと思いました!

土木に関わるようになったきっかけ

白石:土木に関わるようになったきっかけは何ですか?

杉田さん:幼いころに瀬戸大橋を見て、そのスケールの大きさに感銘を受けたのがきっかけです。人間の力でこんなすごいものが造れるんだ、とその時から漠然とこういう道に進みたいと考えるようになりました。

白石:実際に現在土木のお仕事をされて、九重“夢”大吊橋を架けたわけですが、橋ができた時はどんな気持ちでしたか?

杉田さん:正直なところ、ほっとしたというのがあります。あの場所は風が強く、風に対する対策など様々な配慮が必要でした。難しい点もありましたが、現場が一丸となり、さらには地元の方の協力も得て造りあげてきたので、出来上がった時は地元の方々の気持ちに伝えられたとほっとしました。

土木の魅力

白石:杉田さんにとっての、土木の魅力とは何ですか?

杉田さん:よく土木の仕事は「インフラを造る」という風に表現しますが、それは言い換えれば、「人の暮らしをつくり、より豊かにする」ということにつながります。そういった点で、構造物を造ることによって自分は少しでも人の役に立っている、立ち続けられると感じられるのが、土木の魅力だと思います。また、九重“夢”大吊橋については、現在では当初の予想をはるかに上回る観光客数を得られ、地域の活性化に少しでも協力できたと感じられるのも、魅力の一つです。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

杉田さん:土木は形に残る仕事であり、自分が造ったものが何年、何十年と人の生活を支えています。そういったことに価値観を見いだせること、それが大切だと思います。また、学生時代に机で勉強していたことが将来現場に立って初めてリンクし、改めて面白さを感じることもあります。そんな経験がたくさんできるように、学生時代は様々な知識を蓄えておくことも重要だと思います。

インタビューを終えた感想

九重“夢”大吊橋を造った人に、足の不自由な祖母がこの橋を喜んで歩いていたことへのお礼を言いたい!という思いで今回お話を伺いました。杉田さんにお会いして、その人柄から当時の現場の雰囲気が伝わってくるようでした。私もこんな風に、「造ってくれてありがとう」と感謝される立派な技術者になれるよう頑張りたいです!



杉田俊介さん

白石有理

杉田俊介
1972年兵庫県生まれ。
川田工業株式会社 工事部工事課所属。
1995年入社、鋼橋建設工事の施工管理に携わり、
2004年～2006年、九重“夢”大吊橋建設工事の現場代理人を勤める。





土木がすき!!! この人にあいたい⑩



水野 明久

「土木に誇りを持って!!」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

名古屋大学
河尻 陽子



名古屋大学
藤田 桃子



なぜ会いたいか

私たちは名古屋大学工学部・社会基盤工学科に所属している学部4年生です。中部電力(株)代表取締役社長の水野明久さんにご多忙の中をインタビューさせて頂きました。

中部電力という中部地区のエネルギー発電を担う大きな会社の社長が土木出身であるということを知り、電力会社で土木がどのような役割を担っているのかにも興味があり、ぜひお会いしたいと思いました。

土木に関わるようになったきっかけ

河尻:水野社長が土木に関わるようになったきっかけを教えてください。

水野社長:大学二年生の時にコース分けがあり、機械系か土木系で悩みましたが、最終的には土木は形として物が残り、自分の頑張った成果が直接的に表れるところに魅力を感じました。また、人の役に立つ仕事がしたいと考え、社会の基盤を支える土木を学ぼうと決心しました。実際、入社してしばらくは水力発電所の現場で仕事をしましたが、自分の設計したものが形になっていく当時の仕事は、これまでの仕事の中で一番印象に残っています。

土木の魅力

藤田:水野社長にとって土木の魅力は何だと思いますか?

水野社長:学生のころは実感がありませんでしたが、入社して以来、土木は幅広い学問であり、仕事も奥が深いということがわかりました。土木の仕事というのは基礎理論に加えて自然条件も加味しなければならぬため、すべて数式で解決できる課題ばかりではありません。それゆえ、思うようにならないことも多いのですが、技術者として総合的に判断した結果が、構造物という目に見える形で出来上がるからこそ土木の醍醐味であり、楽しいところだと思います。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

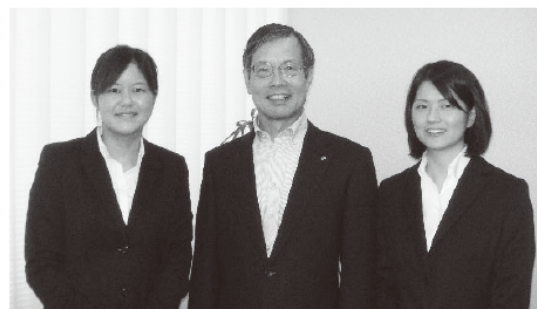
水野社長:土木技術が社会を支えているという誇りをもって頑

張って欲しいと思います。社会に出てからの経験と学習も大切ですが、学生の時に学んだ土、水、コンクリート等の基本知識は本当に大事です。学生時代に勉強したことが今思うと役立つことが多くあります。

また、様々な企業の方と話をして視野を広げてください。土木技術者は縁の下の力持ちであるという存在感をもっとアピールしてもよいのではないかと思います。ロマンを描き、共に社会インフラをつくっていきましょう!!

インタビューを終えた感想

現在、電力会社がメディア等で注目されており、原子力発電についての賛否が問われています。私たちは様々な情報を受け、何が正しいのか分からなくなっていました。そんななか、50~100年先の日本の姿を見据えて、持続可能な電力供給という課題を考えておられる軸のぶれない社長の姿に感銘を受けました。また、大学の授業で学んでいる公式や計算等は本当に今後役に立つのかと思う時もありましたが、様々な経験を積んでこられた社長であるからこそわかる、学生時代の基礎知識の大切さを教えていただき、これからの学習へのモチベーションが上がりました。



藤田桃子

水野社長

河尻陽子

水野明久

1953年生まれ。東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修了。中部電力にて奥矢作、奥美濃の水力発電所のダム建設に従事し、世界銀行出向ではインドの水力・火力発電所建設プロジェクトを担当。国際事業部長、経営戦略本部長等を経て現職。





土木がすき!!! この人にあいたい⑪

小泉 明

「土木、命、この21世紀は土木の時代」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」という方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!

首都大学東京
小川 由布子



なぜ会いたいか

私は首都大学東京の土木材料研究室でコンクリートの研究をしています(2011年9月取材時)。今回は、土木について何も知らなかった私に土木が好きになるきっかけを与えて下さった、首都大学東京 水・環境工学研究室 教授の小泉明先生にインタビューさせて頂きました。土木の魅力を感じるには、小泉先生のお話しかない!という想いで伺いました。

土木に関わるようになったきっかけ

小川:土木に興味を持たれたきっかけは何でしょうか?

小泉先生:小さい頃は電気に興味を持っていて大学でも電気工学を学ぼうと思っていた。しかし、アスワンハイダムの映画を観て、これは土木だと思った。大学で先輩に「ダムは人生で3つしか造れない」と聞いて、交通工学の研究室に入り、その後、①留学②海外の仕事③下水道の仕事という3つの約束にひかれて、日水コンという上下水道のコンサルタントに就職した。この約束はすぐには果たされなかったが、仕事では計画から実施設計まで、ソフト面もハード面も携わることができて面白かった。大学へ来てからの期間も含めると3つの約束も果たされ、満足している。

今は環境問題に注目が集まっているが、当時は公害問題が主流で公害国会^{*}の時代だった。交通工学の目的は、交通容量マキシマム、つまり沢山排気ガスを出すことになると感じ、これを生涯の仕事にするより、世のため人のためになる上下水道を選んだ。現在は水道管路に着目した研究に至り、水の流れを考えている。電気工学が電子の流れ、交通工学が車の流れと考え、ダムは水を扱うと考えると、電気からダム、交通工学、そして上下水道への興味の変遷は、小さい頃に思っていたことから一貫していると思う。

※公害国会:1970年11月に開かれた臨時国会で、公害問題に関する法令の抜本的整備を行った。

土木の魅力

小川:土木の魅力についてどうお考えですか?

小泉先生:土木と言うのはCivil Engineeringと言われているように、人々の役に立つ工学であるということ。歴史的に

見ても、土木というのは重要な分野で、人が生きて行くためには不可欠なことを扱っている分野である。特に、上下水道は都市の動脈と静脈であり、脈が無いと人間が生きられないように、上下水道が無いと都市は成り立たない。広大な1km²に1人の原始の生活であれば、土木は要らないかもしれないが、ある程度人が集まれば必要であり、全ての学問が無くなっても土木工学は残ると思っている。

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

小泉先生:「この21世紀は土木の時代だ」と言っておきたい。一度造ったものは必ず老朽化する。また、日本は地震や台風も多く、そもそも人が住みにくい国土であるが、こうした環境の中でも、負けずに生き延びてきた。土木工学は災害をミニマムにするとともに、復興を早めることができる。循環的更新のサイクルが問われている中で、土木が無ければ人々の安心な生活はありえないのだから、長期的な視点に立って、前向きに頑張ってくださいと強く言いたい。

インタビューを終えた感想

都立大入学時、「土木は地図の点ではなく面をつくる」という先生の言葉で初めて土木に触れたとき、土木でよかったと感じたことを思い出しました。先生の情熱的な一言一言で、土木の重要性を再確認し、土木の魅力を感じながら多くの方々に伝えて行こうと改めて思いました。



小泉先生 小川由布子

小泉明

現在、首都大学東京大学院 都市環境科学研究所 教授
昭和46年東京都立大学卒業後、(株)日本水道コンサルタントに入社。
55年東京都立大学講師、58年助教授を経て、平成6年教授、現在に至る。
上下水道工学、環境システム工学を専門とし、土木学会、廃棄物資源循環学会、
また、国や都をはじめ日本水道協会や水道技術研究センターなどで活躍。
好きな言葉は「仁・義・礼・智・信」。





土木がすき!!! この人にあいたい⑫



内山 里映

「とにかく何事にもチャレンジ!!!」

「土木技術者女性の会」に所属する女子大生と若手技術者が、「土木がすき!!! この人にあいたい」と思う方へインタビューをして、全12回を交代で執筆します。進路や仕事について考える女子中・高生やそのご家族へ向けて、土木の魅力や土木にこだわる理由などをお届けします!



広島大学
濱本 夏美

なぜ会いたい

私は広島大学工学部第四類・社会基盤環境工学課程の3年生です。昨年までは高専で土木を学んでおり、その時から将来は土木構造物を造る仕事に関わりたと思っていました。今回は、ゼネコンにお勤めで、現在は育児をしながら技術営業をされている内山さんに、過去に担当されたダム現場などでの監督業務の楽しさややりがいを伺いました。

土木に関わるようになったきっかけ

濱本:なぜ土木の道に進もうと思ったのですか?

内山さん:もともと土木工学を専攻したのは、理系の学科を希望していたことと、モノづくりがしたいという気持ちからです。ビルやマンションなどは、主にそこを使う人が恩恵を受けますが、道路や空港やダムなどの土木構造物は、みんなの生活に必要なものですので、社会に、より貢献できるのではと思ったのです。就職先にゼネコンを選んだ理由は、仕事が残ることに魅力を感じたからです。

土木の魅力

濱本:土木現場の魅力や、やりがいは何ですか?

内山さん:自然が相手の仕事ですので、常に状況が変わることですね。状況の変化に応じて、ベストな施工方法をいつも考え続けるという大変さがなんとも面白い!現場ではスタッフが一丸となって、施工の段取りや安全などについて綿密な計画を立てるのですが、実際に施工し形になるまでは凄くドキドキ感がありますね。だからこそ完成したときの充実感とは決して味わえません。夏休みに子供を連れて自分が携わったダムを見に行ったのですが、成果を形で見せられるので子供にもわかりやすく、ちょっと自慢?できるところが最高でした。

それから、たくさんの人と接することができることも魅力ですね。物を造ることは決して一人では出来ませんので、現場を進めるためにはいろいろな人と相談して、調整して、交渉し

て……コミュニケーションを上手に取ることでより円滑に仕事が進められるのです。私は人と話すことが好きなので、これも土木現場の魅力だと思っています!

土木を学ぶ学生と若手技術者へメッセージ

内山さん:私も心がけていることですが、とにかく何事にもチャレンジすることです!言われてから動くとか、言われてないから動かないという指示待ちは避けたいですね。余計なことをすると怒られることもありますが、自分で考えて行動することは、結果が成功でも失敗でも自分の糧になりますよ!そのためには「自分はこうしたいと思う」という考えを持たなければなりません。ただ、それにこだわりすぎて他のものが見えなくなったらもったいない。自分と考え方が違うなと思ってもまずは話を聞き、その方法でやったらどうなるかを考えてみる。そうすることで新しく気づくことがたくさんあります。若いときは可能性がたくさんあるので、いろいろ挑戦してほしいと思います。

インタビューを終えた感想

内山さんは明るくて、前向きで、仕事に対して責任感とやりがいをもっていらるようになりました。私も内山さんのように、楽しい!と思えるような仕事に就いて、いろいろなことにチャレンジしていきたいです!!



濱本夏美 内山里映さん

内山 里映
1969年生まれ。東京理科大学工学部土木工学科卒業。
1993年大林組入社後、富郷ダム、上ノ国ダムなど愛媛、北海道、秋田と約9年間の国内現場勤務を経験。
7歳の娘のママ業と二足のわらじを履く。
大林組第一号の営業ウーマンとして毎日走り回っています。



次回総会 (6/22、23 開催予定)



2012年5月7日

土木技術者女性の会 会員各位

関東地区世話役 時弘 みどり

第31回 土木技術者女性の会 総会 開催のご案内

拝啓 陽春の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、下記のとおり第31回土木技術者女性の会総会を開催致します。

今回は、創立30周年を記念して、「いのちを守る土木の未来」をテーマに、土木の原点を再考し若い世代に土木の意義を伝えることを目的とした『どぼく未来フォーラム』を開催します。フォーラムにおいては、基調講演、パネルディスカッションの他に、土木技術者女性の会を社会に広く知って頂き、親しみをもって応援していただくために、一般に向けて募集したシンボル・ロゴマークの決定発表を致します。また、総会においては、『創立30周年記念総会』として、会の創成期メンバーにお越し頂き、当時のお話を伺う場を設けました。土木技術者女性の会の今日までの30年の道のりを振り返り、会の「これから」を大いに語り合ひましょう。

皆さまと東京でお会いできることを楽しみにしています。

敬具

記

■ 会議名称：第31回土木技術者女性の会 総会

■ 開催日時：2012年 6月22日（金）13:30～17:00

2012年 6月23日（土）9:30～14:00

- ◆ どぼく未来フォーラム：東京大学駒場リサーチキャンパス コンベンションホール
- ◆ 懇親会：どぼく未来フォーラム交流会に引き続き開催
- ◆ 創立30周年記念総会：こどもの城研修室

申込・連絡先：infoswce@womencivilengineers.com（関東地区スタッフ、5/31申込み締切り）
保育を希望される方、宿泊のご希望のある方は、5月18日（金）までに、その旨をご連絡下さい。

※ 総会の資料については、土木技術者女性の会HP(<https://womencivilengineers.secure-ymc.jp/>)よりダウンロードの上、ご持参下さい。5月中旬頃UP予定

※ フォーラム・総会に際して写真を撮影します。会HP・会誌に掲載される場合がありますのでご了承下さい。

※ 本件に関するお問い合わせ先

6/21までのお問い合わせはこちらまで

infoswce@womencivilengineers.com（関東地区スタッフ）

※申込締切：5月31日（木）

以上

《 会員以外の方のお申し込みはこちらから 》

創立30周年記念行事

どぼく未来フォーラム開催概要

□プログラム

13:00～ 開場

13:30～13:45 開会宣言
シンボル・ロゴ最優秀作品 発表・表彰

13:45～14:30 基調講演 浅川智恵子氏(日本アイ・ビー・エム株式会社、IBMフェロー)
(休憩)

14:50～16:50 どぼく未来パネルディスカッション

「いのちを守る土木の未来」ー土木の原点を考えるー

浅川智恵子氏(日本アイ・ビー・エム株式会社、IBMフェロー)

山本 卓朗氏(第99代土木学会会長、鉄建建設株式会社特別顧問)

木村 亮 氏(京都大学教授、NPO法人道普請人理事長)

(司会)桑野 玲子 (土木技術者女性の会会長、東京大学准教授)

16:50～16:55 どぼく未来宣言 閉会

□日時

2012年6月22日(金)

13:30～17:00

□場所

東京大学

駒場リサーチキャンパス

コンベンションホール

<小田急線/東京メトロ千代田線>

東北沢駅より徒歩7分

代々木上原駅より徒歩12分

<井の頭線>

駒場東大駅より徒歩10分

池ノ上駅より徒歩10分

□参加資格

どなたでも参加できます！

□参加費 無料

□終了後、交流会(3000円)
を予定しています！



【参加申込・問合せ先】 30th-anniversary@womencivilengineers.com

本文に、①氏名、②所属、③参加理由、④緊急連絡先を明記の上、ご送信下さい。

受付完了後、確認メールを送信致します。3日以上返信メールが届かない場合はお知らせ下さい。

「輪」への投稿・ご意見は編集担当 箱田裕子 へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は、事務局まで、お願いします。
e-mail:webmaster@womencivilengineers.com

【事務局】

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-12

御茶の水センタービル3F

中日本建設コンサルタント株式会社

東京支社東京事務所技術部

笹尾圭哉子